
遊戯王GX～機皇帝の女神と風の物語～

凍夜 鬼哭

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王GX〜機皇帝の女神と風の物語〜

【Nコード】

N6997P

【作者名】

凍夜 鬼哭

【あらすじ】

燈瀬 秋輝による物語が今、始まる……。

作者の初投稿です、かなり更新が不定期ですが、見放さないで下さい。初心者なので、ご指摘やアドバイスをありましたら気軽にメッセージを送ってくださると作者は喜びます。

主人公設定（前書き）

皆様初めましてです、自分は凍夜 鬼哭と言う者です、以後御見知り置きをお願い申し上げます。初めてなので、アドバイスや助言がありましたら感想板に書いて下さると幸いです。

主人公設定

<<<名前 燈瀬^{とうせ} 秋輝^{しゅうき} 14歳

<<<姿 バカとテストと召喚獣の木下 秀吉

<<<使用デッキ 機械デッキ

墓地ドラゴンデッキ (今後増える予定)

<<<性別 秋輝

<<<性格 余り喋らないが、勉強と読書が好き、口調は古風で怒ると大変な目に逢う、そして、料理は意外に上手い。

<<<好きなことや人 料理 読書 稽古(剣道と舞踊) 優しい人

<<<嫌いな人 エリート思考に固まった人 人を見下す人 自分の事を女として見る人

<<<オリジナルカード

<<<『機皇帝の女神ーヴィーナスワイゼル∞』<<<天使族 光属性

☆×7

<<<攻撃力 2900

<<<守備力 2900

<<<効果

＜＜このカードは『機皇帝ワイゼル∞』を生贄にしなければ召喚することが出来ない、このカードの召喚されたターンに発動した相手モンスターの効果を無効にし、破壊する。このカードがモンスターを破壊したとき、デッキ又は墓地からレベル4以下の機械族又は天使族のモンスターを一体特殊召喚することが出来る。

＜＜精霊 『機皇帝ワイゼル∞』のリンナ

＜＜性格 マスターである秋輝の良き理解者で、良き相談役で、光の結社に好感謝な秋輝が心配で堪らないが、最も嫌いなのはオベリスクブルーエリートらしい。（理由はとうとおしいから）＜＜『風霊使いウイン』の菖蒲

＜＜道端に捨てられてた『風霊使いウイン』を秋輝が拾ったら、精霊化して秋輝に抱き付いて思いつき涙を流した、それ以来秋輝がいないと不安になってしまう、オベリスクブルーのエリートを嫌っており、見る度に怒りを露にしている。

主人公設定（後書き）

秋輝「で、駄文製造機？何故儂の姿が変わっているのか教えて欲しいのう？」

他の作者様の小説を見て書きたくなったので変えました。

秋輝「ほお、それだけが為に儂の姿を変えたのかのう…そんな作者は抹殺じゃな。」

ぎゃああああゝ、腕はそっちには曲がらないからああああゝ！！（ゴキッ）↑作者は気絶した。

秋輝「ふう、作者の始末完了じゃ、こんな作者じゃが、暖かく見守ってくれると助かるぞ、遊戯王GX機皇帝の女神と風の物語をよろしく頼むぞい。」

プロローグ（前書き）

大変遅くなりすいません、文章の構成に手間取って投稿が遅くなった事を此所でお詫び申し上げます、ではご覧ください。

プロローグ

燈瀬 秋輝Side

筆記試験はなんとか上手くいったのう…。

しかしあの問題はなんだったのじゃろうか？ 全て青眼の白龍や青眼
ブルーアイズアルティメット・ドラゴン
の究極龍関連の問題しか出てこなかったのが不思議じゃ。

おおすまぬ、儂は燈瀬 秋輝と申す、以後御見知り置きをお願い申し上げるぞい、儂は今、少し時間ができた故に試験場内をぶらついておるのじゃ。……んっ？ 儂は一体誰と話しておるのじゃ？

少しそれたの…筆記試験の問題が解けたから良いのじゃがの、そういえば、大地は元気にしておるだろうかのう、最近、逢っておらぬ故、少し心配なのじゃが…大丈夫じゃろ、大地は勉強にデュエルも結構強かったからの、大地は心配無用じゃな。

『痛い…痛い…誰か…助けて……』

む、誰かが助けを呼んでおる…！ 行かなければならんの！

燈瀬 秋輝Side out

秋輝は声が聞こえる方に走って向かうと、そこにはごみ箱の下に踏まれている、『風霊使いウイン』に『憑衣装着ウイン』のカードのから、『痛い…痛い……』と悲痛な声が聞こえていた。

秋輝はごみ箱を持ち上げて、別の場所に置くと、『風霊使いウィン』と『憑衣装着ウィン』のカードを拾った。

燈瀬 秋輝 Side

許せぬ、この学び舎にカードを棄てる族^{やから}がおるとは…犯人を見つけたら少し説教をせねばならん！

「秋輝？この娘も精霊みたいよ、少し訳ありみたいだけど…。」

なんと！この娘も精霊なんじゃな、まあ…リンナも精霊じゃから、余り驚きはしないのう、ああ、リンナとは儂の親友で、『機皇帝ワイゼル∞』の精霊じゃ、何故か擬人化しておるのは儂には解らぬ、そしてこの『機皇帝ワイゼル∞』のカードは未来のカードらしいのじゃが、儂には解らぬ事が多過ぎるから今は放置じゃな。

リ「秋輝……大丈夫？独りごとは危ないわよ。」

リンナ！儂をそんな危ない人を見るような眼で見るでない！

????「貴女達は誰……？」

(ぬ、少し警戒されておるのう…まあ無理もあるまいて) 儂は燈瀬秋輝じゃ、そしてこの者は儂の親友である、リンナじゃ。

(リンナ↓リ、秋輝↓秋にします。by作者)

リ「よろしくね♪貴女はなんで棄てられていたの？」

????「はい……わたしはデッキにすら入れてくれなくて、いつもカードケースから見ただけでした……ある時にアイツは私をカードケースから取り出して、ごみ箱の下に入れたんです……。」

『お前なんか要らない、代わりにこのカードがあれば最強になれる、

最弱なお前なんて要らねえよ!」

私を棄てて、新しいカードを持って何処かに行きました…悲しかった…デュエルにも使ってくれなかった…うう…私が…悪いのかなあ?」

許さぬ、この娘の思いを一切理解せずに棄てた奴には少し仕置が必要なようじゃのう。リ「秋輝…余りやり過ぎないでね…前に仕置した人、デュエル恐怖症を発症して、家から出なくなったんだからね……。」

うむ…あの男には少しやり過ぎたのう、大丈夫じゃ、少なくともあの男の様な仕置はしないからの…保証は出来んが。

リ「保証が出来ない分かなり不安だけど……」

???「なんで…貴方達は私の為に此所までしてくれるの?」

なんでって、それはお主が泣いておったからの。

リ「秋輝は泣いてる娘はほっとけ無いのよ、それが秋輝の良い所なのよ。」

だから、今は泣いて心のモヤモヤをすっきりさせるのじゃ。

秋輝が優しくウインを抱き締めるとウインは秋輝の胸の中で声を上げて泣いた、リンナはそれを優しい笑みで見守っていた…。

プロローグ（後書き）

秋輝 「作者？デュエルまで進めるのではなかったのかのう。」

実はデュエルまで進める筈だったんだけど、予定より文章の構成に手間取ったから、デュエルの描写はまた次回って感じかな…。

秋輝 「ほう、作者にはお仕置きじゃな……覚悟は出来たかのう？」

うつ……出来れば優しくお願いします……。

秋輝 「食らうがよいわ！！某筋肉漫画の將軍直伝の地獄の断頭台じゃ……！！！」

ぐげふっ！！我……生涯に……悔い……あり……げふっ！

秋輝 「作者の始末完了じゃ、遅くなって済まないのう、また次回の遊戯王GX機皇帝の女神と風の物語をよろしく頼むぞい。」

第一幕 デュエルアカデミア入学試験開始!! (前書き)

遅くなり、大変申し訳ありません……第一幕でこの遅さ……駄目駄目じゃん、自分……お粗末な出来ですが、見てくれると幸いです。

第一幕 デュエルアカデミア入学試験開始!!

三人称SIDE

秋輝はウインを優しく抱き締めるとウインは秋輝に泣きついて大きな声で泣いていた、しばらくすると、泣き腫らした瞳でウインは秋輝の顔を見て礼を言った。

ウイン『ありがとう…、秋輝のおかげですっきりした…。』

秋輝はウインの頭を優しく撫でると、急に立ち上がった。

秋輝「そうじゃ、お主の名前を決めてなかったのじゃ、うん…何が良いかのう？」

秋輝は頭を捻りながらウインの名前を考えていた、すると秋輝の後ろからリンナが現れて楽しそうに言った。

リ「秋輝？ウインちゃんの名前さ、菖蒲あやめにしない？この娘すごく可愛いから♪」

リンナはウインを自分の胸元に抱き締めると、ハートマークを乱舞させながらウインを嬉しそうに抱き締めていた、ウインはリンナの行動に少しびっくりしていたが、ちょっと嬉しそうにリンナの胸元に収まっていたウインであった。

秋輝はリンナの提案に同意して、首を縦に振った。

秋「それは名案じゃ！！ウイン！これからお主は菖蒲あやめじゃ！！」

秋輝は綺麗な笑みでウインの名前を言った。

リ「ふふふ…（微笑）、良かったわね…。ウイン…：ううん、菖蒲？」

リンナは菖蒲を優しく抱き締めていた。

菖蒲「ありがとう…：マスター…：私に名前を付けてくれてありがとう…、私は菖蒲の名を名乗ってく。」

ウイン改め菖蒲は年相応の無邪気な笑みを浮かべた。するとリンナが菖蒲を抱き締めながら、秋輝に聞いた。

リ「ねえ、秋輝？そろそろ行かなくて良いの？実技試験が始まるんじゃないの？」

秋「そういえば、そうじゃのう…：そろそろ行かなければならんのう、デッキは行く前に決めるかのう…（さあ 何が欲しいの？ 何を求めるの？）んっ？電話じゃな…：もしもしじゃ…：おお、これは久しぶりじゃな…：ふむ…：ふむ…：なんと！あのカードを使ってくれと言うのかのう、しかしあのカードは人を惑わすぞい…：ふむ…：ふむ…：なるほどのう、御祓いは儂が巫女服でしたから問題は無いのう、解った…：デッキはあのカードを使わせて貰うぞい、ではのう、またのう…：天馬 夜行殿。」

秋輝は電話を切ると、自分の懷からデッキを取り出して、菖蒲をデッキに入れた。

秋「しかし、あのカードを使ってくれとは、あの人は何を考えてお

るのか解らんのう、使わぬとまた何を着せられるか解らんからの、リンナ、今回は休んでくれるかのう？」

秋輝はリンナの瞳を見て、リンナに少し泣きそうな顔で聞いた。

リ「解ったわ：秋輝、悲しそうな顔しないの、私は何時でも秋輝の側にいるから。」

リンナは秋輝の頭を優しく撫でると、秋輝に向けて笑顔を見せた。

秋「すまんのう、しかし、デュエルアカデミアという学び舎に入ったら必ず使うからのう。」

『試験番号57番の方へ、デュエル場に来て下さい、実技試験を開始します、繰り返します、試験番号57番の方へ、デュエル場に来て下さい、実技試験を開始します。』

放送が流れると秋輝は慌ててデュエル場に走って向かって行った、いつの間にか巫女服に着替えていた秋輝であった…。

デュエル場に向かおうとした何処かのカイザーが余りの美しさに鼻血を出したのは全く持って余談である。

慌ててデュエル場に到着した秋輝は試験官の前に息を整えながら立っていた。

試験官「君が試験番号57番の人だな、自分は不知火^{しらぬい} 烈火^{れつか}よろしく。」試験官は黒のスーツを着て、片手にはデュエルディスクを付けていた。

秋輝「僕は燈瀬 秋輝じゃ、よろしく願いのじゃ。」

烈火・秋輝 「デュエル!!」

烈火 「先攻は貰うぞ、俺のターン、ドロー!! 俺は「切り込み隊長」を攻撃表示で召喚!! 更に「切り込み隊長」の効果で手札にあるレベル4以下のモンスター一体を特殊召喚する! 俺は「レアメタル・ドラゴン」を召喚し、カードを二枚伏せてターンエンド!!」

烈火の場に鎧を装着し、両手に二本の剣を持った戦士が現れると、一緒に鋼鉄に身体を包んだ翼の無い竜が現れた。

切り込み隊長 地属性 戦士族☆×3

攻撃力 1200

守備力 800

効果 このカードが表側表示でフィールド場に存在する限り、相手は他の表側表示で存在する戦士族モンスター一体を攻撃対象にすることが出来ない、このカードの召喚に成功した時、手札からレベル4以下のモンスター一体を特殊召喚することが出来る。

秋 「俺のターン! ドローじゃ!! 俺は手札から速攻魔法発動じゃ、

《サイクロン》で左にある伏せカードを破壊じゃ、更に魔法カード

《ハンマーシュート》で「レアメタルドラゴン」を破壊じゃ! 更に

俺は「ダブル・コストン」を攻撃表示で召喚じゃ! バトル! 「ダブル・コストン」で「切り込み隊長」を攻撃じゃ!」

ダブルコストン 闇属性 アンデット族

攻撃力 1700

守備力 1650

効果 闇属性のモンスターを生け贄召喚する場合、このモンスターは一体で二体分の生け贄とすることが出来る。

サイクロン 速攻魔法

相手の場に存在する伏せカードを一枚だけ破壊する。

ハンマーシュート 通常魔法

フィールドに表側攻撃表示で存在する一番攻撃力の高いモンスター一体を破壊する。

ダブルコストンが切り込み隊長に突進し、切り込み隊長を破壊した。

秋輝 「儂もカード二枚伏せてターンエンドじゃ!!」

烈火 「ちっ! なかなかやるじゃねえか! あの不要な雑魚カードも入れとけば良かったな、風使いの雑魚をな!」

烈火は舌打ちをして菖蒲^{ウイン}を侮辱した。

秋輝 「なんじゃと!! あのカードを棄てたのはお主か!! お主が菖蒲を泣かせたという事じゃな……許さぬ、お主の様な不逞のやからは儂が裁いてくれる! 儂のターン!! カードドロ……!! このカードは……漸く来てくれたかのう……儂は手札から『デーモンソルジャー』を召喚じゃ! 更に儂は手札から魔法カード『二重召喚』を発動じゃ!」

デーモンソルジャー 闇属性

通常モンスター

悪魔族☆×4

攻撃力1900

守備力1500

デーモンの中でも精鋭だけを集めた部隊に所属する戦闘のエキスパート、与えられた任務を確実にこなす事で有名。

二重召喚 通常魔法 このターン自分は通常召喚を2回まで行う事が出来る。

秋輝 「お主の様な奴は絶対に許さぬ、我がデッキよりいでよ！！ダブルコストンとデーモンソルジャーを生け贄に捧げ、儂は邪神ドレツドルートを召喚じゃ！！」

邪神ドレツドルート 闇属性 悪魔族 ☆×10

攻撃力4000
守備力4000

効果 このカードは特殊召喚することが出来ない、自分フィールド上に存在するモンスター三体を生け贄に捧げた場合のみ通常召喚する事が出来る、このカードがフィールド上で表側表示で存在する限り、このカード以外のフィールド上のモンスターの攻撃力・守備力は半分になる。

秋輝の場が闇に包まれるとそこから、邪神ドレツドルートが降臨した……。

『我が封印を解放した者は誰だ？』

秋輝のみに聞こえてきたのは邪神ドレツドルートの声が聞こえて来た。

秋輝 「封印を解放したのは儂じゃ、邪神ドレツドルート殿…儂は燈瀬 秋輝という者、今回は貴方様に力を借りたく貴方様の封印を解放した次第で候う。」

秋輝は邪神ドレッドルートに跪いた。

ドレッドルートは秋輝の態度が気に入ったらしく、笑いながら言い放った。

『気に入ったぞ人間よ…我が力…存分に使うが良い…但し、間違った力の使い方をすれば主の魂を戴く…解ったな。』

ドレッドルートからの警告に秋輝は首を縦に振った。

秋輝「待たせてしまうたのう、お主の伏せカードは一枚のみ……伏せカードオープンじゃ！」「砂塵の大竜巻」を発動し、お主の最後の伏せカードを破壊じゃ！

覚悟するのじゃ！カードの痛みを知らぬ者達に邪神の鉄槌を与えるのじゃ！！

邪神ドレッドルートでダイレクトアタックじゃ！！

フィアーズノックダウン！！！！」

砂塵の大竜巻 罨カード

相手の場の魔法・罨ゾーンにあるカード一枚を選択して破壊する、その後、自分の手札からカード一枚を魔法・罨ゾーンにセットすることが出来る。

邪神ドレッドルートの音速を超えたパンチが烈火の腹に直撃し、烈火は壁にぶつかり、意識を手放した。

秋輝「お主はデュエリストとして失格じゃ！カードはお主の道具で

はない！カードには魂が込められておる、お主みたいな外道にカードを持つ資格は無い！！」

秋輝はそう言い切ると、ゆっくりとした足取りでデュエル場から去った。

秋輝が去って数秒たった後でデュエル場は歓声に包まれた。

第一幕 デュエルアカデミア入学試験開始!! (後書き)

申し訳ありません……。

今回は自分の不始末で投稿が遅くなり、大変申し訳ありません、何処か間違いや指摘がありましたら、感想に書いてくださると嬉しいです。

第二幕 デュエルアカデミアに現れる介入者（前書き）

投稿が遅くなり申し訳ありません。

本当はデュエル描写まで書きたかったのですが、作者の頭が限界だった為、デュエル描写はまた次回になります。

第二幕 デュエルアカデミアに現れる介入者

??? SIDE

んっ…此処は何処よ？ 嘘でしょ！？ デュエルアカデミア！？ 此処って…まさか…「遊戯王GX」の世界…私はタクミに告白して死んだ筈なのに…あ…意識が…

??? SIDE END

秋輝 SIDE

ふう…少し疲れたのじゃ…、あの後、船内で大地と久々にあったのじゃ。

相変わらず大地は計算するのが得意みたいじゃな、幼いときより遊んだ仲じゃから儂には良く解る。それにデュエルの腕前も確実に強くなっているのじゃ、このままだと抜かれてしまう…儂もデュエルアカデミアで勉学に励まなければのう。

大地は儂の顔を見て顔を赤らめていたのじゃがなんなんじゃろうか？ もしや風邪でも引いたのかのう？ 後で何か作って持っていくとするかのう。

秋輝 SIDE END

大地SIDE

俺は三沢 大地だ。しかし、秋輝に逢ったのは本当に久し振りだ：前の秋輝も可愛かったが、今の秋輝はなんというか、綺麗になった：。前は余りの可愛さに鼻血が止まらなかったのは計算外だった：。未だに鼻血を出していた俺を泣きながら心配してくれた秋輝の顔が今でも忘れられない。

あの時の秋輝の巫女服姿は可愛かったなあ：って！俺は変態じゃない！その事は置いといてだ！まあ可愛かったというのは事実だったんだが。

秋輝は益々デュエルの腕前が強くなっている、俺も負ける訳にはいかない。デュエルアカデミアで頑張ってデュエルキングになるんだ！秋輝は俺と同じライエローだった。

だが、ついさっき秋輝の後ろに『風霊使いウイン』の姿が見えたんだが気のせいだろうか？後で秋輝に聞いてみるとしよう。久々に再会した幼馴染みとしてね。

三沢 SIDE END

三人称 SIDE

秋輝は三沢と一緒にデュエルアカデミアの入学式に出席し、三沢は

成績優秀者として答辞を述べた後、鮫島学園長の言葉をゆつくりと聞き、入学式が滞りなく終わると、三沢は秋輝の肩を叩いて秋輝に気になってた事を声を小さくして聞いた。

大地「秋輝！ 久し振りだな。ついさっき、秋輝の後ろに『風霊使いウイン』の姿が見えたんだがあれはなんなんだ？」

秋輝は三沢の質問に目を丸くしてびっくりしていた。

秋輝「大地…？もしかして大地かろう？ 久し振りじゃ！ 儂は元気だったのじゃ！」

大地にも菖蒲が見えるのかのう？ まあ…大地は見えるものは信じるのじゃからのう……あれはカードに宿る精霊なのじゃ、菖蒲は大地の言う通り『風霊使いウイン』の精霊なのじゃ。」

秋輝が菖蒲を大地に紹介した。

菖蒲『初めましてです、三沢大地さん…私は菖蒲と言う者です、宜しく願います…。』

菖蒲は秋輝の後ろに隠れながら自己紹介をした。

大地は少し頬を赤らめてから優しい笑みを浮かべて、返事をした。

秋輝「そういえば大地…寮の歓迎会まで時間があるのじゃが、少し儂とこのデュエルアカデミアを下見せぬか？ 儂はこういう場所に入るのは初めてなのじゃ……駄目……かのう……？」

秋輝は上目遣いで大地を誘った。（本人に悪意はありません。by 作者）

大地は顔を真っ赤にして首を縦に振った。

秋輝「感謝するのじゃ♪大地はやっぱり優しいのう…」

秋輝は大地の手を握るとゆっくりとした足取りでアカデミアから近い森まで二人で歩いていった。

暫く歩いていると、秋輝達は森の途中で赤い髪にピンクのリボンの付いたカチューシャをした女の子が傷だらけで倒れていた。

秋輝「大丈夫か！！しつかりするのじゃ！！脈は……まだあるようじゃ、良かったのう……大地は保健室に向かって事情を話した後で救急箱を持って来てくれるかのう？」

秋輝は矢継ぎ早に三沢に頼み込んだ、しかし大地は自分の懐からにゅつと救急箱を取り出した。

大地「秋輝は意外に怪我しやすいから常備しといた方が良いかなと思っって持っって来て正解だったな。」

大地はどや顔で救急箱を取り出した。

秋輝はそんな大地に少し驚いたが、すぐに大地にお礼を言うと、治療を開始した。~~~~少年秋輝治療中~~~~

秋輝「これで良しじゃ…しかし…何故にこんな火傷や痣があるのじやろ？大地は何か解ったかのう？」

秋輝は三沢に視線を写しながら疑問を口にした。

三沢「うゝん……情報が少な過ぎるから調べようがないから何とも

言いにくいな、だけど…これだけは言えるよ。」

三沢は一回区切ってから、改めて言った。

三沢「この娘は何者かに暴行されたって事は解るね、しかも一人ではなく、三人〴〵四人位の一团に集団暴行を受けた可能性は極めて高いと言えるね。」

三沢は秋輝が怒りに震えてる前で冷静に言った。

秋輝「許さぬ、こんな女子に集団暴行を働くなぞ……人として許せぬ!!」

秋輝は怒りを拳に込めてはき出すように言った。

三沢「そして、見慣れない白いカード…これは多分可能性でしかないんだが…彼女は未来から来たって可能性が高いかもしれないな。」

すると、秋輝と三沢が話題にしていた少女が目を覚ました。

??? 「んっ……あ……れ……傷が…治療されてる………?」

少女は自分に巻かれた包帯を見て急に大きな声を出した。

??? 「そうだ! アタシの天馬騎士ペガサスガイアは何処にあるんだ!？」

少女はえらく慌ててデッキケースからデッキを取り出して少女が言っていた天馬騎士ペガサスガイアを捜していた、すると三沢が持っていた白いカードを見て声を上げた。

??? 「あゝっ!! アタシの【天馬騎士ペガサスガイア】!! 返せ

!!」

少女は三沢が持っていた【天馬騎士ペガサスガイア】のカードを奪い返した。

大地「元々君が目覚ましたら返す手筈だったから大丈夫だ。」

三沢は俺は人のカードは奪う様なデュエリストじゃない!とはつきりと言い切った。

秋輝「怪我の手当てですっかり忘れてたのじゃが、名前はなんと言うのじゃ?」

秋輝は大事そうに【天馬騎士ペガサスガイア】のカードをデッキに入れた少女に言った。

茜「あつ……ごめん!すっかり言うの忘れてたわ、アタシは公竜茜って言うんだ、宜しくね。」

少女…公竜こうりゆう 茜は秋輝と握手を交わした。あかね

茜「えーっと……ごめんね、三沢君…てっきりアイツらかと思っちゃって…。」

茜はバツの悪そうな顔で大地と握手をした。

三沢「いや…謎の集団に襲われたら自然と警戒するのも仕方無いさ。」

大地は手当てをした時に不自然な痣が出来ていたのを思い出して茜

と握手を交わした。

茜はそんな大地の行動に感動していた。

秋輝「しかし、何故茜殿のカードを狙うのじやろうの？ 茜殿以外が持っていても無用の長物だと思うのじやがのう？」

秋輝が首を傾げて【天馬騎士ペガサスガイア】のカードを見ていた、すると茜が訳をゆっくりと話した。

茜「時空管理局って組織がアタシのペガサスガイアをロストログアって言うのに指定された上に、奪われそうになったんだ。

私はちゃんと話し合しよう！って意見したんだけど、亜麻色の髪にツインテールの女に腰まで伸びた長い金髪の女が人の話を聞かないで『そのカードは危険なんだ！一般人が持ったらどうなるか解らないから早くこっちに渡して！』しか言わなくて、なんとかペガサスガイアは奪われないで済んだけど。

その代わり、いろんな所に桜色に黄色の丸い球状を当てられて、ロボロにやられちゃったんだ。」

茜は長くなってごめんね！と秋輝と三沢に謝罪をした。

秋輝「許せぬ…人のカードを勝手に危険扱いの上に渡せじゃと…それで応じなかった場合は攻撃…強盗と一緒にじゃ!!」

秋輝は近くにあった樹に向かって拳を握り締めて殴った。すると、樹が縦に真っ二つ割れて倒れた。

三沢「確かに気に食わないな、人のカードを勝手に危険扱いして奪うなんて、人間として許せないな…腸が煮え^{はらわた}繰り返りそうだよ。」

三沢も怒りを押さえ込んではいるが三沢を知る者がいれば怒ってい

る事は火を見るより明らかだろう。

茜「ありがとう…私と友達になってくれるかなあ…？」

秋輝「何を言うておる！既に儂等と茜殿は親友じゃぞ？」

大地「そうだ、俺達は親友だ。何かあったら遠慮無く言ってくれ、俺と秋輝が力になるから。」

三沢はドンッ！と自分の胸を叩いて心配無用だと息巻いていた。
すると…空の上から声が聞こえて来た…。

??? 1「公竜 茜！ロストロギア不当所持で貴女を管理局まで連行します！」

??? 2「その【天馬騎士ペガサスガイア】のカードは相手の精神を破壊する力を秘めてるの！カードを渡してくれたら貴女の罪は軽くなるの！だからカードを渡して！」

腰まで伸びた長い金髪の少女が黒のピッチリスーツを着ており、金髪の少女の手には黒の柄に黄色の球がはめ込まれた黄色の剣を持って現れ、もう片方は亜麻色の髪にツインテールの少女が天使をイメージした服を持ち、片手には先の開いた杖を持った少女達が空からゆっくりと降りて来た。

??? 1「公竜 茜！管理局の保護を受けるんだ、【天馬騎士ペガサスガイア】は相手の精神を破壊させるカードなんだ！」

金色の髪の少女は茜の眼を見て【天馬騎士ペガサスガイア】の危険性を説明していた。

秋輝「巫山戯るのも大概にして欲しいものじゃのう…相手の精神を

破壊する力があるじゃと？……下らぬ、そんなもの使い方しだいじゃろうが、危険なカードだったら、あの海馬やペガサスが忠告にくるわ！」

秋輝は金髪の少女の言っていた危険をはっきりと否定した。

三沢「確かに、そんな危険なカードだったら販売すら出来ないぞ！その前にアンタらは人間としても失格だ！アンタらだけは許さない！俺が叩き潰す！」

大地が懷から別のデッキを取り出してデュエルディスクに装填した、すると秋輝が慌てて大地の腕を掴んだ。

秋輝「大地！そのデッキは辞めるのじゃ！そのデッキを使いこなしたデュエリストはおらぬのじゃぞ！もし大地に何かあったら僕はどうすれば良いのじゃ……。」

秋輝は三沢の腕を強く掴んで瞳を潤ませて三沢の瞳を見ていた、すると三沢は秋輝の頭を撫でて優しい笑みを秋輝に向けた。

三沢「大丈夫だ。秋輝…俺はこのデッキを使いこなして見せる、そしてあそこにいる奴等を倒す！」

大地は金髪の少女と亜麻色の髪の少女を睨みながらデュエルディスクを構えた。

??? 1「私達の話聞いて！」

??? 2「フェイトちゃん！これ以上話し合いは通じないみたいだよ、此処はデュエルで語るしか無いみたい。」

フェイト「なのは…、そうだね、デュエルで語るしか無いみたいだね…。」

金髪の少女…フェイト・T・ハラOWNと亜麻色の髪の少女…高町なのはがそれぞれデッキを取り出してデュエルディスクに装填した。

なのは・フェイト・三沢「」「デュエル!!」「」

なのは LP 4000

フェイト LP 4000

三沢 LP 8000

第二幕 デュエルアカデミアに現れる介入者（後書き）

第二幕、どうでしたでしょうか？ 茜さんを空気にしないようにしなければ…大変な事に……………。

感想や指摘がありましたら、感想版かメッセージでお願い申し上げます。

次回では、三沢君があのだっきを使います。

（今回は多少種族が増えますが、ご容赦下さい。）

第三幕 三沢の怒り、秋輝の涙に茜の誓い（前書き）

遅筆で申し訳ありません、妄想ではかなり進んでいるのですが、いざ書くとなると、なかなか進まなくて……。では、どうぞ。

第三幕 三沢の怒り、秋輝の涙に茜の誓い

SIDE 三人称

三沢「先行は貫うぞ！俺のターン！カードドロ―！俺は【カラス天狗】を守備表示で召喚！カードを二枚伏せてターンエンド！」

三沢 場 カラス天狗 攻撃力1400 守備力1200
伏せカード二枚

三沢は胸を焦がす怒りを押さえながらいつものデュエルをしようと必死だった。そして三沢の場に黒い羽根を羽ばたかせた烏天狗が現れた。

フェイト「私のターン！カードドロ―！私は【ドラゴン・メール・ナイト】を攻撃表示で召喚！カードを三枚伏せてターンエンド！」

フェイト 場

（漫画版で万丈目が使っていたカード）

ドラゴン・メール・ナイト

攻撃力 1600

守備力 1900

伏せカード三枚

フェイトの場に竜の鱗の鎧を身に纏った戦士が現れた。

なのは「私のターン！カードドロ―！私は魔法カード【ホーリーサックチュアリ】を

発動！私は光神テテウスを攻撃表示で召喚！カード二枚伏せてターンエンド！」

【ホーリーサンクチュアリ】天使族以外のモンスターの攻撃力は500ポイントダウンする、Lv5・6の天使族モンスターは生け贄無しで召喚が出来る。Lv7以上の天使族の召喚は生け贄一体で召喚出来る。（漫画版でレジー・マッケンジーが使用した魔法カード）
なのは 場

光神テュス（攻撃力2400 守備力1800）
伏せカード二枚

なのはの場に白で統一され、神々しい光を放つ女神が降臨した。

秋輝「大地…そのデッキだけは使わんでくれと言ったのに…そのデッキは危険なんじゃ…もし大地に何かあったら儂は…」

秋輝は大地達のデュエルを見ていたら、後ろから急に黒い制服を着た黒髪の男が秋輝に向けて砲撃魔法を叩き込んだ、秋輝は樹に叩きつけられた。

フェイト「えっ！？ク…クロノ！！」

フェイトはびっくりしていきなり現れたクロノを見ていた。

クロノ「燈瀬 秋輝！！お前の持つ【風霊使いウィン】と【機皇の女神ヴィーナスワイゼル∞】のカードとお前の身柄は時空管理局が預かる！！」

クロノは秋輝の腹を踏み付けて、高圧的な態度で言った。
すると…ブチッと紐が切れたような音が響いた。

茜「三沢君…怒ってる…けど…私もちよっと許せない…神聖なデュ

エルを汚すなんて……。」

茜は沸き上がったクロノに殺意を露にしていた。

大地「おい、そこにいる下種野郎：俺はお前も許さない：俺の大事な親友を傷付けたお前を絶対に許さないからなあああ……！！！！！！」

三沢は目にも見えない速さでクロノに近付くと、クロノが防御魔法を発動させる前にクロノの顔面に飛び膝蹴りを当てて、倒れたクロノの上に跨がり、クロノ目掛けてパンチを叩き込んでいた。

秋輝は薄れ行く意識の中で大地：済まぬ……一言呟き、意識を手放した。

すると、茜がクロノを殴ってる三沢の頭に飛び膝蹴りを当てた。

茜「三沢！アンタはデュエリストでしようが！デュエリストならデュエルで決着を付けなさい！！KYな連中を倒すのよ！拳じゃなくてね！」

茜が懷からデッキを取り出してデュエルディスクに装填した。

茜「アタシも参加するわ！あんなKY達に色々言われて黙ってられる訳無いわ！アタシの【天馬騎士ペガサスガイア】も秋輝の【機皇の女神ヴィーナスワイゼル∞】に【風霊使いウィン】は渡さないわ！」

三沢「ありがとう、茜のお蔭で落ち着いたよ……さて、クロノとか言ったか？……秋輝のデッキは俺が預かる、もし秋輝に傷一つでも付けて見ろ、次は貴様の身体を叩き潰す。」

大地はクロノを殴っていた時とは違った顔でクロノを睨んだ。

三沢「待たせたな、続けようか、茜のターンだったな。」

三沢 LP8000↓4000

茜 LP0↓4000

茜「ありがとう！大地！アタシのターン！カードドロ！アタシは
ダークフレームを攻撃表示で召喚！カードを二枚伏せてターンエン
ド！」

茜 場 ダークフレーム

伏せカード二枚

茜の場に黒の四角で統一された四面体が現れた。

フェイト「私達は構わないよ、私達が勝てば良いだけの話だからね
！私のターン！ドロ！私は鎧竜を攻撃表示で召喚！バトル！鎧竜
でカラス天狗を攻撃！更にドラゴン・メイル・ナイトでダークフレ
ームに攻撃！」

鎧竜は口から炎を吐いてカラス天狗を消し炭にし、ドラゴン・メイ
ル・ナイトは持っている剣でダークフレームを切り裂こうと襲いか
かったが…

茜「そんな事させない！カウンター発動！【攻撃の無力化】ダー
クフレームは倒させないわ！」

ドラゴン・メイル・ナイトの攻撃は時の渦に飲まれて消えた。

フェイト「…なんとか躲した見たいだね…私はターンエンドだよ、

さあ、この展開をどう返すのかな？」

フェイトは不敵な笑みを浮かべていた。

茜 伏せカード二枚↓一枚

三沢「俺のターンだな、ドロー、俺は馬頭鬼を攻撃表示で召喚！更に手札から速攻魔法【サイクロン】発動！フェイトの右の伏せカードを破壊する、バトル！馬頭鬼でドラゴン・メイル・ナイトに攻撃！」

馬頭鬼が斧を持って現れると、ドラゴン・メイル・ナイトに向けて突進すると、勢いそのままに斧を振り降ろし、ドラゴン・メイル・ナイトを真つ二つに切り裂いた。

フェイト LP4000→3900 伏せカード三枚↓二枚

三沢「カードを二枚伏せてターンエンドだ…さあ、アンタのターンだ。」

三沢は歪な笑みを浮かべながら、なのはを親の敵の様に見ていた。

なのはは冷や汗を流して慌てて左手でカードを震えながら勢いそのままに引いた。

なのは「わ…私のターン…ドロー！私は墓地の【ホーリーサンクチュアリ】を除外する事で、フィールド魔法【神の居城―ヴァルハラ―】を発動なの！効果によりアテナを特殊召喚！」

三沢は震えながらデュエルをしているなのはの姿を見て、笑うのを堪えていた。

——ああ！！なんて情けないんだ！あの馬鹿娘は！これならまだ秋輝とデュエルしてる方がまだマシだ！

三沢は平静を装ってはいるが内心はなのはやフェイトに対して殺意を出していた。なのはの場に白を基本とし、左手には鏡の様な盾を装備し、右手にニケを持った女神が降臨した。

なのは「バトル！私は光神テテウスとアテナで三沢君に攻撃！！」

なのはは完璧に冷静さを失っており、三沢の伏せカードを気にする間もなくアテナと光神テテウスが三沢の馬頭鬼に殺到した！しかし…その攻撃が届く事は無かった……。

三沢「罨カード発動！！聖なるバリアミラーフォース！」

馬頭鬼の前に透明の壁が現れると、テテウスとアテナの攻撃を跳ね返し、テテウスとアテナにフェイトの鎧竜が少し悲鳴を上げると、ガラスが割れる様に破壊された。三沢「聖なるバリアミラーフォース…相手が攻撃を宣言した時に発動する事が出来る罨カードだ…相手フィールド上にいる表側表示で存在する攻撃表示モンスターを全て破壊する罨カードだ。伏せカードを警戒しないで攻撃なんて…随分と焦ってたんだな、しかし、アンタが焦ってくれたお蔭でこっちが有利になった。」

三沢がありがとうと態とらしく笑みを浮かべていた。

三沢 伏せカード二枚↓一枚

なのは「わ…わたしは…ターンエンド……。」

なのはは声と身体を震えながらターンエンドと声をしばった。

茜「（三沢君って、案外意地悪なのね）アタシのターン！カードド

ロー！手札から魔法カード発動！【ツイスター】LPを500支払って発動！なのは【神の居城ーヴァルハラ】を破壊する！アタシはダークフレイムを生け贄に邪帝ガイウスを召喚！更に邪帝ガイウスの効果発動！邪帝ガイウスが召喚された時、フィールド場に存在するカード一枚を除外する！アタシが除外するのはなのはの左側の伏せカードよ！」

なのは 伏せカード二枚↓一枚 モンスター無し

茜が発動した【ツイスター】により、なのはのフィールド魔法が破壊され、邪帝ガイウスの手から放たれた闇の波動がなのはの伏せカードを次元の彼方に消し飛ばした。

茜LP4000↓3500

茜「バトル！邪帝ガイウスでフェイトにダイレクトアタック！！そして馬頭鬼でなのはにダイレクトアタック！」邪帝ガイウスの手から闇の波動がフェイトの身体に直撃し、フェイトは吹き飛ばされ、なのはは馬頭鬼の持つ斧に斬られた。

フェイトLP3900↓1300

なのはLP4000↓2300

茜「私はカードを二枚伏せてターンエンド…さあ、どうするの？」

茜は楽しそうに笑いながらフェイトになのはを見ていた。

フェイト「くっ…わたしは…私達は負けない！貴女達を保護する為に！！」

なのは「わたしも負けない！貴女達を助けてみせる！わたしは罠力

ード発動！【リビングデッドの呼び声】この効果により、墓地からアテナを特殊召喚！」

なのはの場に再びアテナが光を纏って現れた。

フェイト「私は墓地のドラゴン・メイル・ナイトをゲームから除外して、【岩の精霊タイタン】を特殊召喚！更に【岩の精霊タイタン】を生け贄に捧げ、【ストロングウィングドラゴン】を召喚！私は手札から魔法カード【団結の力】を発動！表側表示で存在するモンスター一体に付き、攻撃力と守備力を800ポイントアップさせる！」

ストロングウィングドラゴン攻撃力2400↓4000
守備力1000↓2600

このカードは同じ攻撃力とのモンスターとの戦闘では破壊されない。ドラゴン族モンスター一体を生け贄に捧げて、召喚に成功した時、生け贄に捧げたドラゴン族モンスター一体の攻撃力の半分の攻撃力を得る。このカードが守備モンスターを攻撃した時、このカードの攻撃力が相手守備モンスターの守備力を超えていればその数値の差分のダメージを相手プレイヤーにダメージを与える

フェイトの場に全身緑色のドラゴンが大きく咆哮して現れた。

フェイト「バトル！ストロング・ウィング・ドラゴンで馬頭鬼を攻撃！ストロングハリケーン！アテナで三沢君にダイレクトアタック！」

ストロング・ウィング・ドラゴンの強靱な身体から全てを破壊する暴風が馬頭鬼に襲いかかり、馬頭鬼の身体をガラスの様に粉々に碎き、アテナが三沢にニケの一撃を当てようとした時、しかし…三沢は笑っていた…。

茜「ふふふ：伏せカードオープン！罠カード発動！【砂塵の大竜巻】効果により、【リビングデッドの呼び声】を破壊！それにより、ストロング・ウィング・ドラゴンの攻撃力と守備力は800ポイントダウンする！」

茜がタイミング良く伏せカードの【砂塵の大竜巻】を発動させ、発動していた、なのは【リビングデッドの呼び声】を破壊した、そして、三沢に攻撃しようとしたアテナは消滅した。

攻撃力4000↓3200
守備力2600↓1800

三沢LP4000↓2500

三沢「くっ……！これくらいなら想定範囲内だ！これでアンタらのLPをゼロにすることが出来る…。

俺のターン！カードドロー！！（んっ？このカードは……？だが、俺はこのカードにかける！）俺は墓地の妖怪族モンスター三体をゲームから除外して、大獄丸を特殊召喚！」

おおだけまる

大獄丸

星×8

妖怪族 闇属性

攻撃力 3000

守備力 2900

効果 このカードは通常召喚が出来ない。このカードは墓地に存在する妖怪族モンスター三体をゲームから除外しなければ召喚することが出来ない。このカードは同じ攻撃力のモンスターとの戦闘では破壊されない。（元は坂上田村麻呂と立烏帽子により退治された、鬼神らしいです…作者も何となく使える！と突拍子で出しました。）

三沢の場に頭に角を生やし、甲冑を身に纏い、黒髪に隻眼の若武者が肩に刀を持って辺りを睨み付けて現れた。（作者のイメージは戦国無双の織田信長です、悪しからず。）

三沢「更に手札から【団結の力】を発動！効果により、大獄丸の攻撃力と守備力が800ポイントアップする！更に手札から魔法カード【破天荒な風】を大獄丸を指定して発動！自分フィールド上に表側表示で存在するモンスター一体を選択して、選択したモンスターの攻撃力と守備力は次の自分のスタンバイフェイズ時まで1000ポイントアップする！！」

大獄丸

攻撃力3000↓4800

守備力2900↓4700

三沢「バトル！大獄丸でストロング・ウィングドラゴンに攻撃！煉獄斬！！」

大獄丸の刀に焰が蛇のように纏わりつくと、刀が赤く燃えると、同時に大獄丸は音も無くストロング・ウィング・ドラゴンの懐に近付き……

茜「速攻魔法【収縮】を発動！フィールド上に表側表示で存在するモンスター一体……つまり、フェイトのストロング・ウィング・ドラゴンを選択して発動！選択したモンスターの元々の攻撃力はエンドフェイズ時まで半分になる！」

ストロング・ウィング・ドラゴン

攻撃力3200↓2400

ストロング・ウィング・ドラゴンが【収縮】の効果で小さくなったのを確認した大獄丸は焰を纏った刀でストロング・ウィング・ドラゴンをバラバラの細切れに切り裂き、焼き斬った。

フェイト「きやあああああああゝ!!!!!!」

フェイト1300↓0

三沢「更に邪帝ガイウスでなのはにダイレクトアタック!これで: 終わりだあああ!!」

邪帝ガイウスの手から放たれた闇の波動がなのはに直撃し、なのはを吹き飛ばした!!

なのは「あああああああああゝ!!!!!!」

なのはLP2300↓0

三沢に茜はお互いの顔を見て、満面の笑みを浮かべてハイタッチで喜びを分かち合った。

三沢・茜「やったな!・やったあ!」

秋輝「良かったのう:大地があのでッキ:を使いこなしてくれて:。

」

秋輝が樹を支えにして立ち上がると、ふらふらとよろめいて、歩きながら、三沢と茜に近付いて来た、三沢と茜は途中で倒れた秋輝に慌てて走って行った。

三沢「秋輝！？大丈夫か！怪我は無いか？」

茜「三沢君：少し落ち着いたらどう？秋輝君はふらふらのよ。」

秋輝の身体を触りながら怪我を探してる三沢を茜は剥すと今は取り敢えず秋輝を何処か安全な運ぼうと提案した、三沢は二つ返事で承諾した。

三沢は秋輝をおんぶして運び、茜は比較的軽傷だった為、本人の希望で歩いて行こうとしたその時に後ろからなのはとフェイトの声が聞こえた。

なのは「私達は絶対に諦めないからね！私達は絶対に貴女達を保護するの！」

フェイト「必ずその危険なカードを管理局が保護するんだから！」

クロノは顔面を殴られて何も言えないまま、転移魔法で消え、なのはとフェイトはオベリスクブルーの女子寮に向けて走り去った。

茜「アイツらいつの間にオベリスクブルーに入ったんだろう？」

茜が信じられないと言った感じでなのはにフェイトが走り去った方向を見ていた。

三沢は首を振って、

三沢「さあな、少なくとも入学式では見た事は無いから、何かトリックでも使ったんだろう？さてと、俺達も行こうか？」

秋輝「そうじゃな、少し疲れたしの……（粉碎！玉碎！大喝采！フハハハハハ……）済まぬ、電話じゃ……もしもしじゃ……。」

海馬『ふんっ！出るのが二秒遅いぞ！久し振りだな、燈瀬 秋輝、元気ではないようだな。』

秋輝「二秒遅かったか…済まぬな、久し振りじゃ、海馬 瀬戸…それで今回は何の用じゃ？今は生憎祓いは出来んぞ。」

海馬『祓いは今はいらん、今回は貴様に聞きたいことがあって電話をわざわざ、この海馬瀬戸にかけて来たんだ、有り難く思うがいい！』

海馬は電話越しでフハハハハハ…と社長室で高笑いをしていた。

秋輝は深く溜め息を吐いて、素直に礼をした。

秋輝「ありがとうございますのじゃ、しかし聞きたいこととは何なのじゃ？」

秋輝は首を傾げて電話越しで海馬に聞いた。

すると、海馬は急に電話を切ると、急に三沢達の上から青眼の白龍をあしらった大型ヘリコプターが颯爽と現れ、三沢達の目の前にゆっくりと着陸した。

すると、大型ヘリコプターの中から海馬が現れ、

海馬「聞きたいことはこんな場所では不向きだ、聞くのは海馬コーポレーションの屋上レストランで聞いてやる、その二人も今日は特別に我が海馬コーポレーションの力を見せてくれるわ…。」

海馬はいつの間にか、秋輝をお姫様抱っこで運ぶと、三沢と茜を連れてデュエルアカデミアから離れて行った…。

第三幕 三沢の怒り、秋輝の涙に茜の誓い（後書き）

どうでしたか？誤字脱字がありましたら気軽に言ってくださいと幸いです。

第四幕 攫われた秋輝！そして復活した超能力決闘者！！（前書き）

今回の話には残酷な描写があります、閲覧の際にはくれぐれもご注意下さい。

第四幕 攫われた秋輝！そして復活した超能力決闘者！！

三人称SIDE（in屋上レストラン）

海馬は三沢と秋輝の説明を聞いて、怒りを露にして、磯野にブルーアイズホワイトパフェを自棄食いしていた…。

海馬「巫山戯るなあああ！！人のカードを勝手に危険物扱いにして終いには保護と言って置きながら誘拐だと！！時空管理局め…よっぽどこの海馬 瀬戸を怒らせたいううだ…良いだろう！俺のブルーアイズが焼き払ってくれるわ！あゝっはっはっはっは…。」

海馬の背後に何故かオベリスクの巨神兵が見えたと弟の木馬は震えながら語ったそう、話が逸れたので、元に戻そう。

海馬「済まん、怒りを押さえることが出来なかったようだな、それで、そこにいる公竜 茜は未来から来たという事で良いんだな？」

海馬は未だに信じられんと一言呟いた後で茜を見ていた。

茜「うん、そうなんだ…私も良く解らないんだけど…そして、アタシは時空管理局って言う組織に襲われた…後にはさっき大地君に秋輝君が話してくれた通りです。」

茜は役に立てなくてすいません…と最後に付け加えた、海馬は落ち込む茜を慰めようとしたら…窓から声が聞こえた。

ペガサス「海馬ボーイ！お久しぶりデース♪今回はアメリカで人気のドラマ風に登場してみマース♪」

ペガサスが全身黒のスーツ姿で外で待機しているヘリコプターから

窓ガラスを破って海馬の隣り目掛けて綺麗に着地した。

海馬「ペガサス！！貴様！ちゃんと正面玄関から入れと何度言えば分かるんだ！」

海馬はペガサスに烈火の如く怒っていたが、ペガサスは聞き流していた。

ペガサス「oh！海馬ボーイ！そう、怒鳴っては行けませーん！私は或る危機を伝えに来たのデース、そう秋輝君にね。」

ペガサスは冷や汗をポタリと額から流して言った。

大地はテーブルを叩くと声を荒げてペガサスに烈火の如く怒った。

大地「なんで秋輝ばかりがそんな危険な目に逢うんですか！！秋輝が一体どんな悪い事をしたんですか！？答えて下さ……」嫌、彼は何もしていないよ、彼は我等、アルカディア・ムーブメントのサイコデュエリストになるのだからね。」だ…誰だ！？何処から話してるんだ！」

三沢は席を立ち、秋輝に無事か？と声をかけようとしたら、そこに秋輝の姿は無かった：

そこには目が $\geq$ と $\leq$ で出来たピエロみたいなモンスターに全身から電気を出して、リズムを刻む、顔を電球みたいなヘルメットで顔を隠したモンスターにカタツムリみたいな殻を付け、角から電気を出しているモンスターが気絶しているのか、三沢達の声が聞こえていない秋輝を守護していた、そこには赤い髪にスーツ姿の成年が佇んでいた

「ふふふ：自己紹介がまだだったようだな：私はディヴァイン：アルカディア・ムーブメントの創設者にて私もサイコデュエリストの一員なのだよ、彼には、私以上のサイコデュエリストになるのでね、彼はいただいて行くよ。」

ディヴァインは目が $\geq$ と $\leq$ で出来たピエロみたいなモンスター：クレボンズから秋輝を受け取ると、ディヴァインはデッキからカードを発動させるとそのまま音も無く消えた…。

大地「秋輝：なんで秋輝だけが：秋輝だけがあんな目に逢わないといけないんだ！一体秋輝がどんな悪い事をしたんだ！！」

海馬「解らん、しかしあのディヴァインとか言う男：かなり危険な空気を醸し出していたな。」

三沢はテーブルを叩いて、ディヴァインと言った男に対して怒りを露にしており、海馬はディヴァインの危険性を口にしていた。

ペガサス「遅かったようデース：私はなんと無力なのでしょ…秋輝ボーイには新たなカードを託す予定だったのですが…：そのカードも無駄に終わってしまったようデース。」

ペガサスはアタッシュケースから、これがそのカード達です、と哀しげに茜達に見せた、そのカードの絵柄に茜は驚愕した。

茜「ペ：ペガサス：か：会長：こ、このカードの絵柄って、まさか…！？」

ペガサス「Yes！このカードの絵柄は世界的大ヒットしたロールプレイングゲームの『ドラゴンクエスト』からインスピレーション

を受けて、書いて見ました：如何です？」

ペガサスはそのゲームは最高です！と声高らかに海馬コーポレーションの屋上レストランでステーキを食べながら言っていた。

海馬「ペガサス：その『ドラゴンクエスト』シリーズのカードはそれっきりか？」

海馬がアタッシュケースに入ったカードを見てぽつりと言った。

ペガサスは海馬の瞳を見ながら、

ペガサス「そんな事はありません！これから次々と出す予定デース♪」

と、まだまだ続けて発売するとはっきりと言い切った、すると海馬が不敵な笑みを浮かべながら、

海馬「ペガサス：その計画に我が海馬コーポレーションも支援させて貰うぞ、答えはいいかYesだけだ。」

海馬の口から意外な言葉を聞いたペガサスの瞳は輝いていたと磯野は語った。

ペガサス「海馬ボーイ！貴方なら解ってくれると信じてくれると、信じてました！是非とも今後の発売について話し合いをしたいのは山々なのですが、今はそれ所ではないようですね。」

ペガサスが真剣な空気を出して一言呟いた。

ペガサス「本当は秋輝ボーイにも聞いて欲しかったのですが、攫われた以上皆さんに話すしか無いようですね：、ディヴァインは数年

前に突然現れたのデース、そしてサイキックモンスターという新しい種族を確立させ、尚且つ、シンクロ召喚という新しい可能性を開いたのデース：そこまでなら私も良かったのですが、彼は違ったのデース……」

ペガサスが続きを言おうとしたら、茜が手をあげて、それを制した。

茜「後は私が話しても宜しいでしょうか？ ペガサス会長……？」

茜はペガサスの瞳をジッと見て聞いた、ペガサスは「構いませーん、是非お願いしまーす。」と茜に先の話譲った、茜はペガサスに頭を下げてから話を続けた。

茜「ディヴァインは、私達の世界でサイコデュエリストを戦場で兵士として導入して、世界を我がものとしてるんです。」

茜もなんで甦ったかは解らないんですけど……と首を傾げてディヴァインの危険性を説明した、すると……聞いていた海馬が持っていたコップを粉々に握り潰した。

海馬「許さんぞ、ディヴァイン！！貴様は剛三郎と同じカードゲームを戦争の道具するのであれば俺のブルーアイズホワイトドラゴンが貴様を塵すら残さず消滅させてくれるわ……あゝっはっはっは……！！！」

大地「それはいただけじゃないな、デュエルモンスターズは戦争の道具じゃないからね……、秋輝を攫った段階でも我慢出来ないのに、デュエルモンスターズを戦争の道具にされてたまるか！」

三沢はペガサスの瞳を見てはつきりと秋輝は取り戻す！と誓った、海馬はディヴァインを消し飛ばす！と声高らかに言っていた。

茜「アタシだって、まだ秋輝君に恩を返して無いんだから！デュエルを戦争の道具にされてたまるもんですか！」

茜は絶対にデイヴァイン何かに秋輝君は渡してたまるもんですか！と息巻いていた。

ペガサス「秋輝ボーイは素晴らしい友を持ったようで私は嬉しいデース。」

ペガサスはそうぽつりと言うと、グラスに入ったワインを少し飲んだ。

その頃：攫われた秋輝はデイヴァインにより、拷問にかけられていた。

攫われた最初から、身体を装備魔法の『伝説の剣』で肉体を死なない程度に切り裂かれ、切り裂かれた傷にウォッカをかけられたり、蝋燭の蝋を切り傷に落とされたりと、時間が経過していくに連れて過激な拷問に変わって行った……。

秋輝「あぎやあああああゝ！！！！熱い熱い熱い熱い！！！！」

デイヴァインは秋輝の太股に赤くなるまで熱された焼き印を押していた、秋輝の身体に至る部分には深く斬られた切り傷がつけられていた。

デイヴァイン「さあ！憎め！君を裏切った全ての者を憎むんだ！君

を理解出来るのは私だけだ！私以外の人間は全て敵だ！信じるな！敵は全て破壊しろ！君は私の言う事だけを聞いていればいいんだ！良いね？私だけの秋輝……。」

すると、ディヴァインは秋輝の身体に電気コードを付けると、近くに置かれた発電機を稼働させて、秋輝の身体に電流を流していた。

秋輝はディヴァインの電気責めに声にならない声をあげていた。

そして、電気責めの最中にディヴァインは秋輝に水をかけて更に電圧をあげていた…、暫く電気責めをしていたディヴァインは急に抵抗を辞めた秋輝を見て不敵な笑みを浮かべて、発電機の電源を切った。

攫われた最初から、拷問を受けた秋輝の瞳からは光が消えており、秋輝の精神力は最早なくなっており、とうとう秋輝は考える事を辞めて、ディヴァインの甘い誘惑にのめり込んで行った……。

秋輝「は…いい、ディヴァインの言う事が全て正しいです…ディヴァインに仇をなす者は全て破壊します……。」

秋輝の言葉を聞いたディヴァインは拷問器具を遠くに置くと、秋輝の肩を抱き締めて、涙を流した…。

ディヴァイン「済まない、秋輝…君はアイツらに洗脳されてたから、こんな苦しい行為を君にしてしまった、私を許してくれ、秋輝……。」

ディヴァインは三沢達に洗脳された秋輝を元に戻す為に秋輝に酷い事をしてしまった！とディヴァインは自分をひたすらせめていた。秋輝は自分をひたすらせめているディヴァインに光を写していない

笑みを浮かべて、

秋輝「ディヴァインは悪くないのじゃ…ディヴァインは儂を救ってくれた英雄じゃ、だから、泣かないでくれるかのう…、ディヴァインが泣いていては、儂まで悲しくなってしまうのじゃ…。」

秋輝は少し悲しく笑うとディヴァインの頭を撫でながら光を写していない瞳でディヴァインを優しく見つめていた。

ディヴァイン「ああ！秋輝…こんな私を許してくれるのか…秋輝…君は私だけの秋輝でいてくれないか？」

ディヴァインは秋輝に気付かれない位に狂気の手を浮かべていた。

秋輝はそんなディヴァインの狂気に気付かずに無言で終始ディヴァインの頭を優しく撫でていた。

ディヴァインは秋輝に頭を撫でられながら、

ディヴァイン「（やはり、私以上のサイコデューリストになる、そして彼…いや、彼女はサイコデューリスト達の女神になるな…。）
秋輝…私だけの…女神…ふふふ…フハハハハハ…！！」

ディヴァインは近くの超高層ビルの屋上の一室で笑い声が響いていた…。

秋輝「大丈夫じゃ…儂はディヴァインだけの女神じゃ…誰の女神ではない…ディヴァインの為だけの女神…。」

秋輝はディヴァインに抱き締められたのを、素直に抱き締め返した、

デイヴァインは秋輝の耳側で囁いた。

デイヴァイン「秋輝…？私は君の為に作ったデッキがあるんだが、受け取ってくれないか？」

デイヴァインが自分の懷からデッキを取り出すと、秋輝に渡した。

秋輝はデイヴァインから受け取ったデッキを愛しそうに触ると、デイヴァインが作ったデュエルディスクにデッキを装填した。

秋輝「デイヴァイン…ありがとうなのじゃ、デッキとデュエルディスクまで作ってくれるとは…儂は幸せ者じゃ……。」

秋輝はデイヴァインの頬にキスをした。

デイヴァインは秋輝は完璧に自分の手に墜ちた！と秋輝を抱き締めながら、心の中でガッツポーズをした。

第四幕 攫われた秋輝！そして復活した超能力決闘者！！（後書き）

どうでしたでしょうか？

遅筆で申し訳ありません、少しでも長く書こうとすると、遅筆になってしまいました。

では、次回も読んでくださると幸いです。

第五幕 超能力決闘者VS管理局組（前書き）

遅くなり申し訳ありません、今回は長くなりました。

では、どうぞ。

第五幕 超能力決闘者VS管理局組

（三人称SIDE）

秋輝はディヴァインに抱き締められたまま、朝になっていた。

秋輝は眠っているディヴァインの身体を少し退かすと、キッチンに向かつて歩いて行った……

（少女料理中）

秋輝はエプロンを脱いで、裸Yシャツ姿になると、食器を取り出して、出し巻き卵になめこの味噌汁に炊き込みご飯をよそっていた。

秋輝「これでOKじゃ、後はディヴァインを起こすのみじゃが……キャッ！」

秋輝はディヴァインに抱き締められた、ディヴァインは優しい笑みを浮かべていた。

ディヴァイン「おはよう…僕の秋輝…朝ご飯を作ってくれていたなんて…僕はなんて幸せ者なんだろう！」

ディヴァイン達は秋輝が作ったご飯をゆっくりと食べていた。

すると、ディヴァインは秋輝を見ながら、

ディヴァイン「秋輝…今日は外に出ないかい？秋輝とこの街を周りたいたいが、駄目かい？」

ディヴァインは優しい笑みを秋輝に向けていた、秋輝はディヴァインの誘いに心良く応じた。

ディヴァインは秋輝と一緒に町中を恋人繋ぎをしながらゆっくり歩いていた、秋輝は恥ずかしそうに歩いていた、秋輝はディヴァインの瞳を見ながら言った。

秋輝「ディヴァイン……／＼この格好は少し恥ずかしいのじゃ……／＼」

秋輝の格好は胸元が半分位露出し、膝丈がかなり短い純白のワンピースを着ていた。

ディヴァイン「秋輝にはきつと似合うと思ってチョイスしたんだけど、嫌だったかい？」

秋輝は首を横に振ると、ディヴァインの腕に抱き付くと、ディヴァインの耳側で囁いた。

秋輝「せっかく、ディヴァインが選んでくれた服を着ないのはディヴァインに失礼じゃ、それに僕はディヴァインの所有物じゃからもう……。」

秋輝はディヴァインの左腕に抱き付くと、優しい笑みをディヴァインに向けていた。

その時、秋輝とディヴァインの後ろから、ゴキブリより傍迷惑な黒

髪の少年が空からゆっくりと現れた。

クロノ「燈瀬 秋輝！貴様の持っている『機皇の女神ヴィーナスイゼル∞』に『風霊使いウイン』のカードを管理局に渡せ！！そして管理局の保護を受けるんだ！！」

クロノは秋輝の腕を強く掴むと無理矢理連行しようとしていた。

秋輝「痛い痛い痛い痛いのじゃー！！！！腕が千切れそうなのじゃあ
ああー！！！！」

秋輝の瞳には涙が出ており、ディヴァインの左腕に必死にしがみついていた。

ディヴァイン「辞めるんだ、私の秋輝が嫌がってるじゃないか、それでも連れて行くなら、秋輝とデュエルをしてみようよ。」

ディヴァインは秋輝の肩を抱き締めて秋輝の耳側で囁いた。

ディヴァイン「秋輝？アイツは秋輝を傷付ける悪い奴なんだ……！さあ、アイツにサイコデュエリストの力を見せてやるんだ……。良いね？」

秋輝「解ったのじゃ…、アイツは僕を傷付ける悪い奴…ディヴァインの敵は全て破壊する……デュエルじゃ！」

秋輝は弾かれた様にクロノから離れると、ディヴァインから渡されたデュエルディスクにデッキを装填した。

秋輝 LP4000 手札5枚

クロノ LP4000 手札5枚

秋輝・クロノ「デュエル!!!」

クロノも自分の懐から取り出したデッキをデュエルディスクに装填した。

秋輝「先行は貰うのじゃ：儂のターン！カードドロ！儂は手札から魔法カード発動！【コストダウン】！手札を一枚捨てることで、このターン儂の手札に存在するモンスターのレベルは二つ下がる！儂は「マックス・テレポーター」を通常召喚じゃ！更に手札から魔法カード発動！【緊急テレポート】！儂のデッキからチューナーモンスターの【メンタルマスター】を特殊召喚じゃ！レベル4になった【マックス・テレポーター】にレベル1のメンタルマスターをチューニング!!!

心の深淵に潜む我が憎しみの炎よ、黒き怒涛となりてこの世界を蹂躪せよ！シンクロ召喚！現れよ！【マジカル・アンドロイド】！

メンタルマスターが光の輪変り、マックス・テレポーターが光の輪の中に入り星に姿が変わると、視界が一瞬光に包まれ、秋輝の場には白を基本とした服に緑の線が入り、杖を持った女性が現れた。

秋輝「儂はカードを三枚伏せてターンエンド：更にマジカル・アンドロイドの効果発動じゃ！自分フィールド場のサイキック族モンスターの数×600ポイントのLPを回復するのじゃ！」

秋輝LP4000↓4600手札6枚↓1枚

クロノはサイキックモンスターを見ると、嫌そうな顔で顔を歪めた。

クロノ「サイキックモンスターか：随分嫌なモンスターだな：しかし、倒してしまえば関係ない！僕のターン！カードドロ！僕はモ

ンスターを守備表示で召喚！更にカードを二枚伏せてターンエンドだ！」

クロノ LP4000 手札三枚 伏せカード二枚 モンスター一体

秋輝「儂のターン：カードドロ！儂はカードを二枚伏せて、マジカル・アンドロイドで、守備モンスターを攻撃じゃ！」

マジカル・アンドロイドが杖から光を放つと、守備モンスターを打ち抜いた。

クロノ「守備モンスターは【人食い虫】だ、効果により、マジカル・アンドロイドを破壊する！」

マジカル・アンドロイドの杖が守備表示のモンスターを打ち抜くと、人食い虫が姿を現わすと、人食い虫はマジカル・アンドロイドの頭から飲み込んだまま、ガラスが割れる様に破壊された。

秋輝「儂はターンエンドじゃ……。」

秋輝LP4600 手札二枚

クロノ「僕のターン：カードドロ！僕は手札から【サーチストライカー】を攻撃表示で召喚！更に伏せカード発動！【魔導師の力】この魔法カードをサーチストライカーに装備！攻撃力が伏せカード一枚につき500ポイントアップする為、僕の伏せカードは【魔導師の力】を含めると、二枚！よって、攻撃力と守備力は1000ポイントアップする！よって、攻撃力は2600守備力は2200だ！」

サーチ・ストライカー

☆×4

風属性

戦士族

攻撃力1600

守備力1200

効果 このカードが裏側守備表示のモンスターを攻撃した場合、ダメージ計算を行わず裏側守備表示のままそのモンスターを破壊することができる。この効果を使用した場合、このカードはバトルフェイズ終了時に守備表示になり、次の自分のターンのエンドフェイズ時まで表示形式を変更する事ができない。

クロノの場から黒い格好に両手が超電磁砲みたいになっている戦士が現れた。

クロノ「バトル！サーチ・ストライカーで秋輝にダイレクトアタック！」

サーチ・ストライカーが両手の超電磁砲から砲弾が放たれると、勢いそのままに秋輝に殺到した、しかし…秋輝は全く動じていなかった…。

秋輝「伏せカード発動じゃ！【攻撃の無力化】この【攻撃の無力化】により、サーチ・ストライカーのダイレクトアタックは効かぬ。」

攻撃の無力化 カウンター罠

相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。相手モンスター1体の攻撃を無効にし、バトルフェイズを終了する。

秋輝 伏せカード三枚↓二枚

クロノはチツと舌打ちするとターンエンドと悔しそうに言った。

秋輝「儂のターン…カードドロ！儂はサイコ・ウォールドを攻撃表示で召喚！儂は手札から速攻魔法発動じゃ！【緊急レポート】この効果により……儂は……！？」

すると、秋輝は急に頭を押さえて、寒さに震える様に身体を振るわせていた。

すると、秋輝の脳内にある記憶が流れて来た。

『ウチは……や……って言うんや、貴方の名前は何ていうんや？』

幼い頃の秋輝に話しかけている、車椅子に乗った関西弁の少女が幼い頃の秋輝と同じ目線で話しかけていた、記憶が曖昧なのか、名前までは秋輝には思い出せなかった。

『私は燈瀬 秋輝って言うの。』

幼い頃の秋輝が人見知りするのか、少し頬を赤らめて言った。

『そうなんや、お父さんにお母さんはどうしたん？』

車椅子に乗った関西弁の少女が瞳をきよきよさせて、幼い頃の秋輝の両親を捜していた…しかし、幼い頃の秋輝の口からは……。

『私の両親はもう……、……前の……で』

此処でも曖昧なのか、全く出てこなかった。

すると、記憶の中の車椅子に関西弁の少女は、幼い頃の秋輝を優しく抱き締めると、静かに涙を流していた。

『大変やったんやね、これからはウチが秋輝の家族になったから

な、これからはウチをお姉ちゃんって呼んでええで。』

記憶の中の幼い頃の秋輝は車椅子に乗った関西弁の少女の優しさに
関西弁の少女の胸元で声をあげて泣いていた。

すると、記憶の映像はなくなり、元の光景に戻ると、秋輝は声にな
らない声を上げた。

秋輝「僕は【緊急レポート】の効果でデッキからチューナーモン
スターの【クレボンズ】を特殊召喚じゃ！更に伏せカード発動じゃ
！【早すぎた埋葬】！この効果により、墓地から、【マジカル・ア
ンドロイド】を蘇生！！レベル5のマジカル・アンドロイドにレベ
ル4のサイコ・ワールドにレベル2のチューナーモンスターのク
レボンズをチューニング！！

心の深淵に潜む我が復讐の螺旋よ、逆巻け！我が憎しみの黒炎よ、
この世界を蹂躪し、新たな世界を創世せよ！シンクロ召喚！！こ
の世界に新たな秩序をもたらせ！サイキック・クリエイター！！」

秋輝の場に目が $\geq$ と $\leq$ で出来た道化師が現れると同時に地表から、
人食い虫に食われた、マジカル・アンドロイドが杖を持って現れる
と、クレボンズが光の輪になり、その輪の中を掻い潜ってサイコ・
ワールドの後ろから、マジカル・アンドロイドが通ると、星にな
って、光が辺りを包んだ、すると、秋輝の場には全身が純白の創世
神がゆっくりとその姿を現わした。

サイキック・クリエイター（オリジナルカード）

☆×11

サイキック族

攻撃力 2900

守備力 3100

シンクロモンスター

サイキック族チューナーモンスター＋チューナー以外のサイキック族シンクロモンスター＋チューナー以外のサイキック族モンスター
効果 自分の墓地からモンスターを1体選択する。ライフポイントを2000支払い、選択したモンスター1体を特殊召喚する。この効果は1ターンに1度しか使用できない。このカードは墓地からの特殊召喚はできない。

はやすぎた埋葬

装備魔法

効果 800ライフポイントを払う。自分の墓地からモンスターカードを1枚選択して攻撃表示でフィールド上に特殊召喚し、このカードを装備する。このカードが破壊された時、装備モンスターを破壊する。

クロノはサイキック・クリエーターの大きさに瞳を丸くしていた。

クロノ「な…なんなんだ！？ あんな大きいシンクロモンスターは聞いた事が無いぞ！？」

デイヴァインは秋輝の力に狂った笑いを浮かべていた。

デイヴァイン「あはははははははははは…！！ 燈瀬 秋輝…！！君はなんて素晴らしいんだ！！ 私すら知らないカードを使いこなすとは…なんて素晴らしいんだ！ さあ！ 秋輝！！ 我等サイコデュエリストの初陣を華々しく飾るのだ！！」

デイヴァインが手で合図をすると、秋輝の心の声が響いた……。

『だれかたすけて』

この心の声が果たして希望となるか否かは誰にも解らない……。

〈三人称SIDE（クロノ編）　END〉

〈とある少女SIDE〉

はあ……はあ……はあ……しかし、疲れるわ!! くっ……なんでウチは今の今迄気付かなかったんや!?

余りの馬鹿さ加減に自分で自分を殴り倒したいわ!!

そんな事考えている暇なんかあらへんな……絶対に許さへんで時空管理局……ウチの大事な家族に手を出した上に、暴力まで振るっている組織の部隊やったなんて……すずかちゃんやアリサちゃんに話したら、絶対に絶交されるやろな、それは覚悟の上や!

部隊長をしてたウチもやけど、ゴキブリより傍迷惑なKYに、人の話を聞かないで魔法という力で無理矢理言う事を聞かせるツインテールの冥王や、明らかに前の方が強かったらしい、金髪の執務官とかやろなっ! そして……!!

「主はやて! 今すぐにお戻り下さい! 今なら、減給と謹慎で済みます!」

くっ! レヴァンティンをウチに向けて良くそんな事が言えるな! 同性を拳で殴るニート侍やったっけな! そうはいかへんねん!! ウチは今から、家族を助けに行くんや! シグナム達には悪いとは思っているけど、ウチは行く……いや、行かなきゃならへんねん!

「主はやて!! なら、何故……ロストログア不当所持者のデッキとデイスクを持って行くんですか!？」

このデッキとディスクは元々あの人のデッキとディスクや！ロスト
ログア不当所持者？それはウチ等の法の中での話しやろ！それにそ
れはあの人の仲間を人質に取って、デッキとディスクを没収したっ
て聞いたで！！

ロストログアを回収する為なら何やつてもええんか！！ソレが時空
管理局のやり方なんか！？ええ！答えて貰おうか！！ヴォルケンリ
ッターの一人の烈火の将シグナム！！

「主はやて……主はやては誰かに洗脳されている、洗脳は私が解く
しかない！！」

ちっ！説得に応じなかったら、洗脳された哀れな被害者かいな……最
悪やな……。せやけど、ウチは助けたいんや！ディヴァインに捕まっ
た……ウチの……ウチの……とっても大事な妹を助けたいんや！！

～とある少女SIDE END～

～三人称SIDE（クロノ編）～

秋輝の瞳には涙が出ていた、ディヴァインは秋輝の表情の変化に気
にする事も無かった。

秋輝「うわあああああ……！！儂は……サイキック・クリエイター
で、サーチ・ストライカーを攻撃！サイキック・アブソリュートオ
オオオオ……！！」

サイキック・クリエイターの両手から、極大の白い球体が生成され
ると、ハンドボールの球の様にサイキック・クリエイターが跳躍す
ると、勢い良く極大の白い球体をサーチ・ストライカーに向けて投
げた。サーチ・ストライカーは粉々に消し飛び、ガラス片がクロノ
の身体に突き刺さった。

クロノ LP4000↓3700 伏せカード二枚↓一枚

クロノ「くっ！サーチ・ストライカー……伏せカード発動！【リビ
ングデッドの呼び声】！効果により、墓地から、サーチ・ストライ
カーを攻撃表示で特殊召喚！！」

ついさっき、サイキック・クリエイターに破壊された、サーチ・ス
トライカーが再びクロノのフィールド場に現れた。

秋輝「僕は……ターンエンドじゃ……。」

秋輝は肩で息をしながら、ターンエンドと言った。

クロノ「僕のターンだ！！チューナーモンスターの【共闘するラン
ドスターの戦士】を召喚！！レベル4のサーチ・ストライカーにレ
ベル3の共闘するランドスターの戦士をチューニング！！集いし星
が新たな正義を紡ぎ出す！正義の刃で敵を切り裂け！シンクロ召喚
！！現れろ！セブン・ソード・ウォリアー！」

クロノの場に小さな剣を持った小人の戦士が現れると、小人の戦士
が光の輪に変わり、その輪の中をサーチ・ストライカーが星になり
ながら、通り過ぎて行くと、一瞬、光の柱になると、周りが光に包
まれた！すると、クロノの場に金色の鎧を纏った戦士が現れた。

セブン・ソード・ウォリアー☆×7

攻撃力 2300

守備力 1800

地属性

シンクロモンスター

チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

1ターンに1度、このカードに装備カードが装備された時、相手ラ

イフに800ポイントダメージを与える。また、1ターンに1度、このカードに装備された装備カード1枚を墓地へ送る事ができる。このカードに装備された装備カードが墓地へ送られた時、相手フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を選択して破壊する事ができる。

クロノ「セブン・ソード・ウォリアーの効果発動！セブン・ソード・ウォリアーに装備カードが装備された時に、相手に800ポイントのダメージを与える！更に手札から装備魔法発動する！【稲妻の剣】をセブン・ソード・ウォリアーに装備！」

稲妻の剣

装備魔法

効果 戦士族のみ装備可能。装備モンスターの攻撃力を800ポイントアップさせ、フィールド上の水属性モンスター全ての攻撃力を500ポイントダウンさせる。

攻撃力 2300↓3100

クロノ「バトル！セブン・ソード・ウォリアーでサイキック・クリエイターを攻撃！セブン・ソード・スラッシュュ！！」

セブン・ソード・ウォリアーが稲妻の剣を持つと、稲妻で秋輝の身体を打ち抜いた、そして、持っていた稲妻の剣でサイキック・クリエイターを細切れに切り裂き、破壊した。

秋輝LP4600↓3800↓3000

サイキック・クリエイターがセブン・ソード・ウォリアーに倒されると、秋輝の瞳に少し変化が現れた……。

秋輝「ううう……誰か……誰か……助けて……！！何も見えない……何も聞こえない……誰か……誰か……助けて……！！」

秋輝は明らかに取り乱して、ディヴァインの言葉すら聞こえていなかった。

ディヴァイン「秋輝！！大丈夫だ！僕の言う事を聞いていれば大丈夫だ！私の言う事を聞くんだ！燈瀬 秋輝！大人しく私の言う事を聞くんだ！！」

ディヴァインは懷から鞭を取り出すと、秋輝の身体を鞭で叩き始めた。

クロノはディヴァインの行動に驚愕していた。ディヴァインは憤怒の表情でクロノに向けてこう言い放った。

ディヴァイン「この小娘はせっかく、拷問にかけてまで、サイコデユエリストにしてやったのに、十六夜アキ以上の力も出せて無いとは…全くとんだ期待外れだよ！！この失敗作が！！」

ディヴァインは顔をトマトの様に赤らめて、秋輝に罵声を浴びせながら、鞭を使って秋輝の身体を痛め付けていた。

クロノはディヴァインに対して感じた事の無い怒りが込み上げていた。

クロノ「ディヴァイン……お前だけは許さないぞ…幾ら燈瀬 秋輝がロストロギア不当所持者でも、拷問にかけられていたなら、話は違ってくるな……、ディヴァイン！！僕はお前を許しはしない！！そして、お前を豚箱にぶち込んでやるから覚悟しろ！！」

クロノは今迄、自分が燈瀬 秋輝を保護しようという目的を初めて破り、ディヴァインを捕まえるという使命感に燃えていた。

ディヴァインは秋輝の後ろに立つと、カードをドロォした。

ディヴァイン「私のターン！カードドロォ！手札から魔法カード発動！【強欲な壺】効果により、カードを二枚ドロォ！手札から魔法カード発動！【死者蘇生】効果により、墓地から、【マジカル・アンドロイド】を特殊召喚！！更に手札から魔法カード【二重召喚】を発動！効果により、私はチューナーモンスターの【ハイパーシンクロン】を攻撃表示で召喚！！レベル4のハイパーシンクロンにレベル5のマジカル・アンドロイドをチューニング！！心の深淵に潜む我が憎しみの炎よ、黒き怒涛となりてこの世界を蹂躞せよ！シンクロ召喚！！全てを打ち抜く力を示せ！ハイパーサイコガンナー！！！！」

強欲な壺

効果 自分のデッキからカードを2枚ドロォする。

緊急テレポォト

速攻魔法

効果 自分の手札またはデッキからレベル3以下のサイキック族モンスター1体を特殊召喚する。この効果で特殊召喚したモンスターはこのターンのエンドフェイズ時にゲームから除外される。（GXではカード自体が無いから、二枚入れましたが如何でしょうか？b Y作者）

ハイパーサイコガンナー

☆×9

地属性

サイキック族

攻撃力 3000

守備力 2500

シンクロモンスター

チューナー+チューナー以外のサイキックモンスター1体以上

効果 このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。また、このカードが守備表示モンスターを攻撃したダメージステップ終了時、その守備力を攻撃力が超えていれば、その数値だけ自分のライフポイントを回復する。

ディヴァイン 「更に私は手札からサイキック・ナイトを攻撃表示で召喚！！」

サイキック・ナイト（オリジナルカード）

☆×4

光属性

サイキック族

攻撃力 1600

守備力 1100

効果 自分のフィールド上に他のモンスターが存在する限り、相手はこのカードを攻撃対象に選択できない。また、このカードがフィールド上に存在する限り、自分のサイキック族モンスターの攻撃力は400ポイントアップする。

ハイパーシンクロン

☆×4

機械族

チューナーモンスター

効果 このカードがドラゴン族モンスターのシンクロ召喚に使用され墓地へ送られた場合、このカードをシンクロ素材としたシンクロモンスターの攻撃力は800ポイントアップし、エンドフェイズ時にゲームから除外される。

ディヴァインの場に白を基本とした鎧を纏い、西洋剣を持った女性が姿を現わした。

ディヴァイン「更にサイキック・ナイトの効果発動！このカードがフィールド上に存在する限り、サイキック族モンスターの攻撃力は400ポイントアップする！！もちろんその効果はサイキック・ナイトにも及ぶ！！バトルだ！ハイパーサイコガンナーでセブン・ソード・ウォリアーを攻撃！サイコツインショット！！更にサイキック・ナイトでクロノにダイレクトアタック！サイキック・ブレード！！」

ハイパーサイコガンナー 攻撃力 3000↓3400

サイキック・ナイト 攻撃力1600↓2000

ハイパーサイコガンナーが持っている銃から銃弾が放たれると、最初は回避していたセブン・ソード・ウォリアーだったが、不意打ちに銃弾を鎧を打ち抜かれ唸り声を上げるとガラスの様に砕け散った。更にサイキック・ナイトは持っていた剣でクロノの身体を一刀両断に斬った。

クロノLP3700↓1700

クロノは少し意識を飛ばしかけたがなんとか堪えていた、それはもうプライドでは無く、目の前にいる屑野郎ディヴァインを豚箱にぶち込むという事しか頭に無かった。

クロノ「ぐっ！！諦めないぞ……！ ディヴァイン……！！貴様を捕まえて豚箱にぶち込んだ後、洗いざらい吐かせた後に死刑台送りにするまでは……こんな所で倒れる訳には………いかないんだよおお

おおー！！！！僕のタアアアアンツ！！」

クロノは身体の至る所から出血しながらも、カードをドローすると、笑みを浮かべた。

クロノ「僕は手札から魔法カード発動！【死者蘇生】効果により、墓地からチューナーモンスターの【共闘するランドスターの戦士】を特殊召喚！！更に僕はレベル4の【翻弄するエルフの剣士】を攻撃表示で召喚！！」

共闘するランドスターの戦士チューナーモンスター

地属性

戦士族

☆×3

攻撃力 500

守備力 1200

効果 このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、自分フィールド上に表側表示で存在する戦士族モンスターの攻撃力は400ポイントアップする。

翻弄するエルフの剣士

地属性

戦士族

☆×4

攻撃力 1400

守備力 1200

効果 このカードは攻撃力1900以上のモンスターとの戦闘では破壊されない。（ダメージ計算は適用する）

クロノ「更に行くぞ！！レベル4の翻弄するエルフの剣士にレベル3のチューナーモンスターの共闘するランドスターの戦士をチューニング！！集いし星が新たな可能性を紡ぎ出す、光を纏いて現れる

！シンクロ召喚！！悪をなぎ払え！ライトニング・ウォリアー！！」

ライトニング・ウォリアー

シンクロモンスター

チューナー＋チューナー以外のモンスター1体以上

光属性

戦士族

☆×7

攻撃力 2400

守備力 1200

効果 このカードが戦闘によって相手モンスターを破壊し墓地へ送った時、相手の手札の枚数×300ポイントダメージを相手ライフに与える。

クロノの場には金の髪に全身を銀の鎧を纏い、赤い布を着た戦士が現れた。

クロノ「手札から魔法カード……発動！【破天荒な風】効果により、ライトニング・ウォリアーの攻撃力と守備力が次の自分のスタンバイフェイズ時まで1000ポイントアップする！！」

破天荒な風

通常魔法

効果 自分フィールド上の表側表示で存在するモンスター1体を選択して発動する。選択したモンスターの攻撃力・守備力は、次の自分のスタンバイフェイズ時まで、1000ポイントアップする。

ライトニング・ウォリアー

攻撃力 2400↓3400

守備力 1200↓2200

クロノ「バトル！！ライトニング・ウォリアーでハイパーサイコガンナーを攻撃！！行け！ライトニング・ウォリアー！！目の前で苦しんでる燈瀬 秋輝の瞳に光を取り戻せ！！ライトニング・パニッ
シャアアアアア！！！！」

クロノは顔と身体を自分の血で染まっても力の限り叫ぶと、クロノの叫びに答えたのか、ライトニング・ウォリアーが一瞬、クロノを見て不敵な笑みを浮かべた、ライトニング・ウォリアーは自分の拳に光を集めて、自分の主に狙いを定めている不屈き者目掛けて光を限界まで溜めた拳をハイパーサイコガンナーに狙いを定めた！

『主にこれ以上傷を付けさせてたまるかあああ！！我と共に消えろ！ハイパーサイコガンナー！！』

ライトニング・ウォリアーが怒りと自分の不甲斐なさを吐露するようにハイパーサイコガンナーに襲いかかった！

『私はディヴァインのより良い世界の為に貴様を倒す！あんな小娘とディヴァインを比べるまでも無い！！覚悟するがいい下等生物が
あああ！！』

ハイパーサイコガンナーの銃の弾幕がライトニング・ウォリアーに襲いかかり、ライトニング・ウォリアーの鎧を打ち抜くが、ライトニング・ウォリアーは怯む事なく、叫び声を上げると自身の拳をハイパーサイコガンナーの身体に叩き込んだ！

ハイパーサイコガンナーとライトニング・ウォリアーはお互いの力を出し尽すとガラスが割れる様に綺麗に消えて行った……、ハイパーサイコガンナーの顔とライトニング・ウォリアーの顔は敵ながらすっきりしていた…。

クロノは負けているのに笑っていた。

クロノ「ふっ、デュエルでは僕の負けだろうが、内容ではディヴァイン！ 貴様の負けだ！ 秋輝の切り札のサイキック・クリエーターはセブン・ソード・ウォリアーが倒し、ディヴァインの切り札のハイパーサイコガンナーはライトニング・ウォリアーと相打ち……喩え、デュエルでは負けてしまいが、デュエルの内容では僕は今のディヴァインや秋輝には負けてない、僕には一切の悔いは無い！ 僕はターンエンドだ！！」

ディヴァインはかなり悔しそうにしていた。

ディヴァイン「き…貴様あああ…このディヴァインを恐れないとは…気に食わない！！…サイキック・ナイトでダイレクトアタック！ サイキックブレード！！」

クロノははつきりとディヴァインと瞳に光の無い秋輝を見て言い切った、そして、サイキック・ナイトの攻撃を一切の迷いも無く、その身に受けた……。

クロノLP1700↓0

すると、ディヴァインの腕の中にいる秋輝が急に声を上げて、ディヴァインの腕の中から必死に離れるように空に向かって叫んだ。

「助けてなのじゃ……助けて…はやお姉ちゃん！！」

秋輝がディヴァインの腕の中から必死に叫ぶと、空から何処かの高校の制服を着た、茶髪の短く整った髪の少女が片

手にデュエルディスクを付けて颯爽と現れ、ディヴァインをまるで親の敵を見るかの様な瞳で言い放った。

はやて「ディヴァイン…良くもまあ…ウチの大事な大事な家族に手を出してくれたなあ？覚悟出来とるんか…。」

はやては冷静にディヴァインを睨んでいた、その表情はまさに夜叉明王であった。

秋輝は少し思い出したのか、はやての姿を見て嬉しそうにはやてお姉ちゃん！！と叫んでいた。

ディヴァイン「秋輝！騙されてはいけない！君には僕がいるじゃないか？秋輝！あんな小娘に惑わされるな！」

秋輝「離してなのじゃ！はやてお姉ちゃん！！助けて！」

秋輝はディヴァインの言葉に耳を傾ける事すらせずにはやての元に向かおうと必死に手を伸ばしていた。

ディヴァインは自分の言葉に耳を傾ける事すらしない秋輝に苛立ち、太股に向けて懷にしまっていたナイフで勢い良く刺した！

はやての耳には秋輝の悲痛な声が耳の奥まで響いていた…。

はやてはそんなディヴァインの凶行を見せられて、我慢に我慢を重ねてきた堪忍袋の尾が切れた…。

はやて「ディヴァイン、アンタだけは絶対に許さへん！！これ以上ウチの大事な家族を傷付ける事はウチが許さへん！デュエルや！デュエルで決着を付けようやないか！」

ディヴァイン「良いだろう！私も伊達にアルカディア・ムーブメントの総帥と言われたサイキックデュエリストだ、見せてあげよう！

格の違いという奴を！」

ディヴァインは太股に刺さったナイフの痛みに苦しむ秋輝から、デュエルディスクにデッキを奪うと、その奪ったディスクを自分の腕に付けた。

はやてはいち早くディヴァインに刺されたナイフを抜き、自分のポケットに入っていたハンカチで傷口を止めると秋輝の頭を優しく撫でてから、ディスクにデッキを装填して、ディヴァインと対峙した。

はやて・ディヴァイン「デュエル!!」

はやて LP4000 手札5枚

ディヴァイン LP4000 手札5枚

第五幕 超能力決闘者VS管理局組（後書き）

如何でしょうか？

一人称で書くと余計難しい……それになんか書いてたら、クロノが凜々しくなった……前ではゴキブリだったのに。

次回ははやてVSダイヴァインです、果たしてはやてはダイヴァインに勝てるのか！

次回のデュエルまでにデュエルスタンバイ♪

第六幕 絶望の化身 サイキック・ヴィーナスの猛攻!! (前書き)

漸く完成致しました…。

では、どうぞ。

第六幕 絶望の化身 サイキック・ヴィーナスの猛攻!!

はやて「先攻は貰うで！ウチのターン！カードドロ！ウチは【マックス・ウォリアー】を攻撃表示で召喚や！カード二枚伏せてターンエンドや！」

マックス・ウォリアー

☆×4

戦士族

風属性

攻撃力 1800

守備力 800

効果 このカードは相手モンスターに攻撃する場合、ダメージステップの間攻撃力が400ポイントアップする。このカードが戦闘によって相手モンスターを破壊した場合、次の自分のスタンバイフェイズ時まで、このカードのレベルは2になり、元々の攻撃力・守備力は半分になる。

はやての場に、先が左右に別れた棒を持った屈強な戦士が勢い良く現れた。

はやて LP4000 手札3枚 伏せカード二枚 場マックス・ウォリアー 一体

デイヴァインははやてを一睨みすると

デイヴァイン「貴様が余計な事をしなければ秋輝はずっと私の物になっていた！それを邪魔した貴様は断じて許しはしない！私のターン！私はサイキック・ナイトを攻撃表示で召喚！」

サイキック・ナイト（オリジナルカード）

☆×4

光属性

サイキック族

攻撃力 1600

守備力 1100

効果 自分のフィールド上に他のサイキック族モンスターが存在する限り、相手はこのカードを攻撃対象に選択できない。また、このカードがフィールド上に存在する限り、自分のサイキック族モンスターの攻撃力は400ポイントアップする。

デイヴァインの場にクロノにとどめを刺した、サイキック・ナイトが颯爽と現れた。

デイヴァイン「最初のターンは攻撃しないでおうか、私もカードを二枚伏せてターンエンドだ…。」

デイヴァインLP 4000場 サイキック・ナイト

伏せカード二枚

手札 三枚

デイヴァインは先ほどの怒りが嘘のように冷静であった。

はやてはデイヴァインの変化に敏感になっていた。

はやて「（前のデイヴァインやったらそのままシンクロ召喚しとった筈なのにシンクロ召喚しなかった…これは一筋縄じゃいかへんな…。）ウチのターンや！カードドロ！ウチはチューナーモンスター【ニトロ・シンクロン】を召喚や！更に手札から魔法カード発動や！スター・チェンジャー！効果により、マックス・ウォリア

1のレベルを1上げる！そして、レベル5になったマックス・ウォリアーにニトロ・シンクロンをチューニングや！集いし絆が新たな力を紡ぎ出す！ウチらの未来に光を！シンクロ召喚！！燃え上がれ！ニトロ・ウォリアー！！」

ニトロ・シンクロン

機械族

レベル2

チューナーモンスター

効果 このカードが「ニトロ」と名のついたシンクロモンスターのシンクロ召喚に使用され墓地へ送られた場合、自分のデッキからカードを1枚ドローする。

スター・チェンジャー

速攻魔法

効果 フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を選択し、以下の効果から1つを選択して発動する。

●そのモンスターのレベルを1つ上げる。

●そのモンスターのレベルを1つ下げる。

ニトロ・ウォリアー

炎属性

戦士族

シンクロモンスター

☆×7

攻撃力 2800

守備力 1800

素材 「ニトロ・シンクロン」＋チューナー以外のモンスター1体以上

効果 自分のターンに自分が魔法カードを発動した場合、そのターンのダメージ計算時のみ1度だけこのカードの攻撃力は1000ポイント

イントアップする。このカードの攻撃によって相手モンスターを破壊した場合、相手フィールド上に表側守備表示で存在するモンスター1体を攻撃表示にしてそのモンスターを続けて攻撃する事ができる。

はやての場に屈強な全身緑色の戦士が現れた。

はやて「バトルや！ニトロ・ウォリアーでサイキック・ナイトを攻撃や！貫け！ダイナマイト・ナックル！」

ニトロ・ウォリアーの拳がサイキック・ナイトの腹に決まるとサイキック・ナイトは吹き飛ばされ、硝子が割れる様に碎け散った。

ディヴァインLP4000↓3200

ディヴァイン「くっ！この程度で倒れる私ではないぞ！」

はやて「せやろな、あんたには色々聞かならん事が山程あるんや！ウチはニトロ・シンクロンの効果でカード一枚ドローしてターンエンドや！」

はやてLP4000

場 ニトロ・ウォリアー

伏せカード二枚↓三枚

手札 二枚

はやてはキッとディヴァインを睨み付けてターンエンドと言った。

ディヴァインはそんなはやてを見て、チツと舌打ちをした。

ディヴァイン「生意気な狸が…いきがるな！私のターン！ドロー！

私はメンタルプロテクターを召喚！更に手札から速攻魔法【緊急レポート】を発動！効果により、私はデッキからチューナーモンスターのクレボンズを召喚！更にレベル3のメンタルプロテクターにレベル2チューナーモンスターのクレボンズをチューニング！心の深淵に潜む我が憎しみの炎よ、黒き怒濤となりてこの世界を蹂躪せよ！シンクロ召喚！現れろ！マジカル・アンドロイド！」

ディヴァインの場に金色の装甲のロボットみたいなモンスターが主を守る為に現れ、そして同じタイミングで目が $\geq$ で出来た道化師が現れた、そして、クレボンズが光の輪に変わると光の輪の中を金色の装甲のロボットメンタルプロテクターが通過していくと、ディヴァインの場が光に一瞬だけ包まれた！

ディヴァインの場にマジカル・アンドロイドが杖を振りかざしながら颯爽と現れた。

ディヴァイン「更に伏せカードオープン！装備魔法【サイキック・ロッド】を発動！私は手札から魔法カード発動【死者蘇生】効果でサイキック・ナイトを墓地から特殊召喚！」さっきニトロ・ウォリアーに破壊されたサイキック・ナイトが地面から現れると空中で華麗な一回転を披露して着地した。

サイキック・ロッド（オリジナルカード）

装備魔法

効果 自分のフィールド上に存在する表側表示のモンスター1体を選択して発動する。選択したモンスター1体の攻撃力を300ポイントアップさせる。このカードを装備したモンスターが戦闘で破壊される場合、代わりにこのカードをゲームから除外する。

マジカル・アンドロイド

攻撃力 2400↓2700↓3100

サイキック・ナイト 攻撃力1600↓2000

デイヴァイン「私はマジカル・アンドロイドでニトロ・ウォリアーに攻撃！更にサイキック・ナイトでダイレクトアタック！」

マジカル・アンドロイドの持つ杖から光が放たれ、ニトロ・ウォリアーの身体を蜂の巣にせんと、ニトロ・ウォリアーに光が殺到した！しかしはやては笑みを浮かべていた。はやて「罠カード発動や！【攻撃の無力化】効果により、マジカル・アンドロイドの攻撃はウチには届かへんよ。」

マジカル・アンドロイドの攻撃ははやての前に現れた、時の渦に飲まれて消えていった。

はやてLP4000

場 ニトロ・ウォリアー

伏せカード 二枚

デイヴァイン「ちっ！運の良い狸め！私はこれでターンエンドだ！」

デイヴァインLP3200↓4400

場 マジカル・アンドロイドサイキック・ナイト

伏せカード サイキック・ロッド 伏せカード二枚

手札 0枚

デイヴァインは舌打ちすると憎々しげにターンエンドと言った。

はやて「運が良いのも実力のうちや！ウチのターン！カードドロ

！ウチはチューナーモンスターの【デブリ・ドラゴン】

を守備表示で召喚や！更にデブリ・ドラゴンの効果を発動や！ウチは墓地からニトロ・シンクロンを特殊召喚や！ウチは！手札からチューニング・サポーターを守備表示で召喚や！レベル4のチューナーモンスターのデブリ・ドラゴンにレベル3のニトロ・シンクロンにレベル1のチューニング・サポーターをチューニングや！集いし絆が新たな絆を紡ぎ出す、光指す道となれ！シンクロ召喚！ウチらの未来に光を見せてや！スターダスト・ドラゴン！」

はやての場に白を基調とした小さな竜ーデブリ・ドラゴンが現れ、同タイミングで消火器みたいな感じの小さな機械がが現れると、同時に頭に中華鍋を被った妖精が現れた。デブリ・ドラゴンが光の輪に変わるとその光の輪の中をニトロ・シンクロンにチューニング・サポーターが颯爽と通ると、光が辺りを包みこみ、はやての場には青白く、胸が青い竜が空を華麗に羽ばたきながら、ディヴァインに向けて威嚇の咆哮をあげて現れた。ディヴァインは憎々しげにスターダスト・ドラゴンを見ていた。

スターダスト・ドラゴン

☆×8

風属性

シンクロモンスター

ドラゴン族

攻撃力 2500

守備力 2000

素材 チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

効果 「フィールド上のカードを破壊する効果」を持つ魔法・罠・効果モンスターの効果が発動した時、このカードをリリースする事でその発動を無効にし破壊する。この効果を適用したターンのエンドフェイズ時、この効果を発動するためにリリースされ墓地に存在

するこのカードを、自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

ディヴァイン「スターダスト・ドラゴン……！！またしてもお前は私の邪魔をするのか！！許さんぞ！私は今度こそ貴様を倒す！」

はやて「まだ、ウチのターンは終わってへんで！ウチは伏せカードオープン！魔法カード発動や！【破天荒な風】効果により、スターダスト・ドラゴンの攻撃力に守備力を1000ポイントアップさせる！バトルや！スターダスト・ドラゴンでマジカル・アンドロイドを攻撃！響け！シューティングソニック！」

スターダスト・ドラゴン

攻撃力 2500↓3500 守備力 2000↓3000

スターダスト・ドラゴンの口から極大の白いブレスがマジカル・アンドロイドに襲いかかった！

ディヴァイン「サイキック・ロッドの効果を発動する！装備したモンスターが戦闘で破壊された時に、サイキック・ロッドをゲームから除外する事で破壊を免れる！」

マジカル・アンドロイドが爆風に包まれると、マジカル・アンドロイドが至る所に傷を付けて佇んでいた。

マジカル・アンドロイド

攻撃力 3100↓2700

ディヴァインLP4000↓3600

はやて「くっ！油断したみたいやな、ウチのバトルフェイズはまだ終わってないで！ニトロ・ウォリアーでマジカル・アンドロイドを

攻撃！貫け！ダイナマイト・ナックル！（秋輝は絶対にディヴァインの束縛から開放するんや！絶対に負けられへん！）」

ニトロ・ウォリアーの拳がマジカル・アンドロイドの身体を吹き飛ばし、マジカル・アンドロイドの身体は粉々に消し飛んだ。

はやては決意を胸に秘めディヴァインを睨み付けた。

ディヴァインLP3600↓3500

ディヴァイン「巫山戯るな！！秋輝は私の奴隷だ！！どうしようと私の勝手だ！私のターン！……ドロー！！私は手札から儀式魔法カード発動！【サイキック・ヴィーナスの誓約】を発動！私は墓地から、マジカル・アンドロイドにメンタルプロテクター、サイキック・ナイト、エクストラデッキからはサイキック・クリエイター、メンタルオーバー・デーモンを除外する！！我が場に降臨せよ！！サイキック族最強の女神よ！我等の世界再生の邪魔な愚か者達を断罪せよ！！」【サイキック・ヴィーナスの誓約】（オリジナルカード）

儀式魔法

効果 自分のエクストラデッキとデッキ・手札・墓地からレベル12以上のサイキック族モンスターを任意の枚数、ゲームから除外する事で手札・デッキ・墓地から【サイキック・ヴィーナス】一体を特殊召喚することが出来る。このカードの発動出来なかった場合、このカードのコントローラは3000ポイントのダメージを受ける。

サイキック・ヴィーナス（オリジナルカード）

☆×12以上

光属性

サイキック族

儀式モンスター

攻撃力 3900

守備力 2400

効果 【サイキック・ヴィーナスの誓約】の効果でのみ特殊召喚することが出来る。

このカードが相手のモンスターを破壊した時、相手モンスターのレベル×700ポイントを回復する。このカードが破壊され、墓地に送られた時、自分のデッキからレベルの合計が9以上になるようにサイキック族モンスターを除外する事で、自分のエクストラデッキから【ハイパーサイコガンナー】一体をシンクロ召喚扱いで自分のフィールドに特殊召喚することが出来る。

デイヴァインの場に白を基調とし、金の装飾があしらわれた鎧に黒髪のプロポーションの良い女性が片手に両刃の剣を持ち、もう片手に盾を持った女神がはやてに殺意をだしながら空からゆっくりと舞い降りた。

すると、秋輝の身体が急に宙を浮かぶと、秋輝はデイヴァインの腕の中に入っていた。

デイヴァイン「バトルだ！サイキック・ヴィーナスでスターダスト・ドラゴンに攻撃！！サイキックオメガブレイク！！」

サイキック・ヴィーナスがスターダスト・ドラゴンの懷に近付くと、持っている両刃の剣に自分の力を込めると、スターダスト・ドラゴンの身体を縦半分に切り裂き、スターダスト・ドラゴンは悲鳴をあげる間も無く、破壊された。

はやてLP3700↓3300 場 無し 伏せカード二枚

はやて「嘘やろ！？スターダスト・ドラゴンが…倒された……ウチの最後の希望が……あかん……もう駄目や…秋輝…すまんあ……こん

な不甲斐ないお姉ちゃんですまんなあ……。」「はやての瞳に最早希望は無く、あるのは絶望だけであった。

ディヴァイン「あっはっはっはっは……!! どうだ! サイキック・ヴィーナスの力は!? 素晴らしいだろう!? サイキック・ヴィーナスのモンスター効果発動! このカードが相手モンスターを破壊した時、破壊した相手モンスターのレベル×700ポイントのLPを回復する!! 我が野望が遂に始まりを告げる時が来たのだ!! あっはっはっはっは……秋輝……ああ! 私だけの秋輝……さあ、お前を惑わせた惨めな狸を断罪するのだ!!」

ディヴァインLP3600↓9000

ディヴァインの腕の中の秋輝は再び光を無くし、ただディヴァインの言う事を聞く人形になっていた……。

第六幕 絶望の化身 サイキック・ヴィーナスの猛攻!! (後書き)

如何でしょうか？はやてちゃんの頭はもう絶望しか写っていません。

果たしてはやてちゃんは秋輝を救い出す事が出来るのか！？それとも秋輝はディヴァインの手先となってしまうのか！？

結果は次回に続く!!

第七幕 絶望を打ち破れ!! シューティング・スター・ドラゴン(前書き)

遅くなり申し訳ありません…。

では、どうぞ。

第七幕 絶望を打ち破れ！！ シューティング・スター・ドラゴン

ディヴァインは自分の腕の中にいる秋輝を抱き締めながら

ディヴァイン「八神はやて……。私に土下座して謝ったら、君も我等アルカディア・ムーブメントの同胞として迎えてやらんこともない。私はこうみえて懐が広いからね、さあ、私に土下座して謝るんだ！秋輝と一緒にいられるんだ。君にとっては藁にも縋る思いだろ……。？」

ディヴァインは優しい口調ではやてを誘惑していた。

はやてはディヴァインの悪魔の誘いに屈しようとしていた。すると、遠くから黄色い制服を来た男が大きな声で叫んだ。

大地「騙されちゃ駄目だ！！茜から聞いたが、ソイツの言う事に惑わされるな！そう言って自分の言う事を聞く人形に仕立て上げるだけだ！！」

三沢の後から追いついて来た、肩まで伸びた赤い髪にピンクのリボンが付いたカチューシャの少女がディヴァインを睨み付けはつきりと言い放った。

茜「ディヴァイン！！アンタは独りじゃ何も出来ない負け犬デュエリストよ！そうやって秋輝や十六夜アキに縋るしか自分の力を出せない！最低なデュエリストよ！！」

茜ははつきりとディヴァインに向かって負け犬と言い放った！

ディヴァイン「貴様等ああ！！この負け狸を倒したら、貴様等を私の力で倒してやる！！」

三沢の言葉が聞こえていないのか、はやては自分のデッキに手を置いてサレンダーをしようとした時、光がはやてを包み込むと、はやては光と共に消えた…。

はやては白一色の空間で目を覚ました。

はやて「んっ……んっ！此処は……何処なんや？ウチはディヴァインとのデュエルでサレンダーしたんやったんか…秋輝……すまんなあ…不甲斐ないお姉ちゃんですまんなあ……。」

はやては白一色の空間で涙を流していた、すると髪型が特徴的な成年がはやての前に現れた。

??? 「八神はやて…お前は此処で泣いてるだけで良いのか？」

はやては髪型が特徴的な成年を見て冷や汗が流れていた…

はやて「ふ…不動…遊…星……。な、なんで…此処にいるんや？」

髪型が特徴的な成年「不動遊星ははやてを見つめて一言言った。

遊星「八神はやて…お前には聞こえないのか？カードの音が…そして大事な家族の音が……。」

遊星は静かにはやてを見つめる様に坦々と言っていた。

はやては遊星を睨み付けはつきりと言い放った！

はやて「聞こえへんよ！！何にも聞こえないんや！！ウチはアンタらみたいに強くなんかあらへん！！ウチは奪うことしか出来ないん

や!! ウチには力はないんや!!」

はやては吐き出す様に自分の無力さを吐き出した。

はやて「アンタはええやろな! どんな状況でも諦めない勇気を持って! だったらアンタがウチの代わりにいけばええやん! こんな不甲斐ない狸はほつというてデイヴァインを倒して来たらええやん!!」
はやては遊星にデュエルディスクとデッキを押し付けようとしたら、ディスクが自分の腕から外れなかった。

はやて「なんでやねん! なんで外れへんねん!! ウチには何も出来へんねん!! ウチは何も守れないんや!」

遊星はそんなはやてを見て一言はやてに向かって言った。

遊星「俺はこれ以上他の世界に介入は出来ない、燈瀬 秋輝を助け出せるのは八神はやて: お前しかない。」

遊星は静かにはやての肩に手を乗せて、静かに優しく笑った。

遊星「それにはやては独りじゃない、はやてが信じていればデッキが答えてくれる。」

はやて「せやかて! ウチのデッキは元々遊星さんのデッキや!!」

遊星「気にするな、俺のデッキははやてに受け継がれたんだ、今ははやてのデッキだ。それに俺には赤き竜から貰ったデッキがある: だから心配するな、はやては自分の大事な家族を救ってくるんだ!」

遊星はせやけどとこねるはやての背中を叩くと、はやてを励ました。

はやて「遊星さん……ありがとうございます……ウチは自分のデッキを信じて、ディヴァインと戦って来ます。」

はやては遊星に頭を下げると、白一色の空間から姿を消した…。

遊星は元気に消えたはやてに安心したのか、ゆっくりと身体が消えていった…、その顔は綺麗な笑みを浮かべ…そして口だけでありがとうと呟き、遊星の身体が消えていった…。

??? 「ふんっ!! 漸く赤き竜の遺産を使うデュエリストが消えてくれたわ!! 憎き赤き竜の遺産供が…! 良くも我を封じてくれおつて!! 我の野望は必ず成就してみせるわ!! ぐはははははははは…!!」

どす黒い悪意の塊が遊星が消えた後で現れると一瞬で何処かへ消えていった…、のちにこのどす黒い悪意の塊が新たな戦いの始まりになるうとはその時、誰も知るよしも無かった…。

はやてが気が付くと、そこは自分がディヴァインとデュエルをしていた場所であった。すると、ディヴァインは時間だ! と言うとはやてに向かって言った。

ディヴァイン「さあ!! 八神はやて! 答えを聞こう! 私達と共にアルカディア・ムーブメントの同胞となるか否か!」

ついさっきのはやてだったら、間違い無くディヴァインの手を取っていただろう：しかし、今のはやての瞳からは光に満ち溢れていた。

はやて「答えはNOや！ウチはアンタみたいな人間には屈したりはせえへんわ！！ウチのターン！！カードドロ！！ウチは伏せカード発動や！！」【託された絆】ウチはニトロ・ウォリアーを生け贄に捧げ、再び墓地より現れよ！スターダスト・ドラゴン！！」

託された絆（オリジナルカード）

通常罠

効果 自分のフィールド上に存在する表側表示のシンクロモンスター1体を選択して発動する事が出来る。自分のフィールド上のシンクロモンスターを生け贄に捧げる事により、自分の墓地から『スターダスト・ドラゴン』をシンクロ召喚扱いで特殊召喚することが出来る、但し、この方法で特殊召喚された『スターダスト・ドラゴン』は攻撃や守備に効果は発動する事が出来ない。

はやての場からニトロ・ウォリアーが光となって消えると、光の中から、サイキック・ヴィーナスに倒された、スターダスト・ドラゴンが傷だらけの身体で精一杯の雄叫びを上げた！！

はやて「まだウチは通常召喚をしてないで！ウチはチューナーモンスター」のジャンク・シンクロンを召喚や！」

ジャンク・シンクロン

☆×3

戦士族

闇属性

攻撃力 1300

守備力 500

効果 このカードが召喚に成功した時、自分の墓地に存在するレベ

ル2以下のモンスター1体を表側守備表示で特殊召喚する事ができる。この効果で特殊召喚した効果モンスターの効果は無効化される。はやての場に背中にエンジンを積んだ戦士が現れた。

はやて「更にジャンク・シンクロンの効果で墓地からチューニング・サポーターを特殊召喚や！！更に伏せカード発動や！【降格処分】！効果により、ジャンク・シンクロンのレベルを2下げる！」

ジャンク・シンクロンが手を振ると、墓地から中華鍋を被った妖精が現れた。

ジャンク・シンクロン レベル3↓レベル1

降格処分

装備魔法

効果 このカードを装備したモンスターのレベルを2つ下げる。

はやて「まだまだ終わらへん！！レベル1になったジャンク・シンクロンにレベル1のチューニング・サポーターをチューニング！！集いし絆が新たな可能性を紡ぎ出す！光指す道となれ！シンクロ召喚！新たな可能性！シンクロチューナー！フォーミュラ・シンクロン！！！」

はやての場に小さなレーシングカーのマスコットが現れた。

フォーミュラ・シンクロン

シンクロ／チューナー

☆×2

機械族

素材 チューナー＋チューナー以外のモンスター一体

効果 このカードがシンクロ召喚に成功した時、自分のデッキからカードを1枚ドロウする事ができる。また、相手のメインフェイズ時、自分フィールド上に表側表示で存在するこのカードをシンクロ素材としてシンクロ召喚をする事ができる。

はやて「秋輝：待っててな：秋輝は独りやない、秋輝をこれ以上ア
ンタみたいな人間に利用される訳にはいかんのや！秋輝は：秋輝は
：ウチが：ううん、ウチらが助けるんやああああ！！レベル2
のシンクロチューナーのフォーミュラ・シンクロンにレベル8のス
ターダスト・ドラゴンをチューニング！！集いし夢の結晶が新たな
可能性の扉を開ける！アクセル：シンクロオオオオ！生来せよ！シ
ューテイング・スター・ドラゴン！！」

レーシングカーのマスコットフォーミュラ・シンクロンが空中で
光の輪に変わると、光の輪の中を颯爽とスターダスト・ドラゴンが
通り、はやての場が緑色の光に包まれると、はやての場に白く輝く
竜が現れた。

シューティング・スター・ドラゴン（アニメ版）

アクセルシンクロ・効果モンスター

☆×10

風属性

ドラゴン族

攻撃力 3300

守備力 2500

効果 このカードは相手のターンでもシンクロ召喚することが出
来る。

自分のデッキの上からカードを5枚めくる。このターンこのカード
はその中のチューナーの数まで1度のバトルフェイズ中に攻撃する

事ができる。その後めくったカードをデッキに戻してシャッフルする。「フィールド上のカードを破壊する効果」を持つ、魔法・トラップ・効果モンスターの効果が発動した時、その発動を無効にし破壊する。

相手モンスターの攻撃宣言時、このカードをゲームから除外し、相手モンスター1体の攻撃を無効にする事ができる。エンドフェイズ時、この効果で除外したこのカードを特殊召喚する。

はやて「これがウチの切り札…そしてアンタから秋輝を取り戻す希望のカード！シューティング・スター・ドラゴンや！！」

はやての声に呼応したのか、シューティング・スター・ドラゴンがダイヴァインに向かって怒りの咆哮をあげ、怒りを露にした。

ダイヴァインはシューティング・スター・ドラゴンの怒りの咆哮に恐怖を覚えた。

ダイヴァイン「くっ！！なんなんだ！そのドラゴンは！私の記憶にはそのドラゴンは見た事が無いぞ！！しかし、攻撃力ではサイキック・ヴィーナスの方が上だ！！」

確かにダイヴァインの言う通り、攻撃力ではサイキック・ヴィーナスの方が上である……それはあくまでも魔法・罠・効果を使わなければの話だが……。

はやて「ふんっ、ダイヴァイン…アンタは重要な事を忘れとるみたいやな、魔法と罠のコンビネーションがデュエルの基本やって事をな！！ウチは手札から魔法カード発動や！【破天荒な風】効果により、シューティング・スター・ドラゴンの攻撃力・守備力は1000ポイントアップや！更に手札から魔法カード発動や！【貪欲な壺】

効果により、ウチは墓地から、ジャンク・シンクロン、ニトロ・シンクロン、デブリ・ドラゴン、チューニング・サポーター、スターダスト・ドラゴンをデッキに戻しカードを2枚ドロージャ！（このカードは……！！）ウチは手札から永続魔法発動や！【未来融合ーフューチャー・フュージョン】効果により、ウチはデッキから【真紅眼の黒竜】に【デーモンの召喚】を墓地に送り、【ブラック・デーモンズ・ドラゴン】をウチの2回目のスタンバイフェイズに特殊召喚することが出来るんや！！せやけど、アンタに2回目のスタンバイフェイズなんか必要やあらへん！ウチは手札から魔法カード発動や！【龍の鏡】効果により、ウチは墓地から、【真紅眼の黒竜】に【デーモンの召喚】をゲームから除外して、ブラック・デーモンズ・ドラゴンを融合召喚や！！」

貪欲な壺

通常魔法

効果 自分の墓地からモンスターカードを5枚選択し、デッキに加えてシャッフルする。その後、自分のデッキからカードを2枚ドロージャする。

未来融合ーフューチャー・フュージョン

永続魔法

効果 自分のデッキから融合モンスターカードによって決められたモンスターを墓地へ送り、発動後2回目の自分のスタンバイフェイズ時に選択した融合モンスターを自分フィールド上に特殊召喚する（この特殊召喚は融合召喚扱いとする）。このカードがフィールド上に存在しなくなった時、そのモンスターを破壊する。そのモンスターが破壊された時このカードを破壊する。

龍の鏡

通常魔法

効果 自分のフィールド上または墓地から、融合モンスターカードによって決められたモンスターをゲームから除外し、ドラゴン族の融合モンスター1体を融合デッキから特殊召喚する。（この特殊召喚は融合召喚扱いとする）

真紅眼の黒竜

☆×7

闇属性

ドラゴン族

攻撃力 2400

守備力 2000

真紅の眼を持つ黒竜。怒りの黒き炎はその眼に映る者を全て焼き尽くす。

デーモンの召喚

☆×5

闇属性

悪魔族

攻撃力 2500

守備力 1200

闇の力を使い、人の心を惑わすデーモン。悪魔族ではかなり強力な力を誇る。

ブラック・デーモンズ・ドラゴン

闇属性

ドラゴン族

攻撃力 3200

守備力 2500

素材 真紅眼の黒竜＋デーモンの召喚

シューティング・スター・ドラゴンの右隣りから真紅眼の黒竜の魂とデーモンの召喚の魂がおぼろげに現れると2体の魂が合わさり、悪魔の力を得た黒竜がはやてのフィールド上に現れ、ディヴァインに向かって怒りの雄叫びを上げた。

はやて「秋輝…、ブラック・デーモンズ・ドラゴンの瞳が潤んでるのが解るか？ブラック・デーモンズ・ドラゴンは悲しいんや、自分が忠誠を誓った主が汚されて、ディヴァインの先兵になってしまった主に鳴いてるんや…。」

秋輝はディヴァインの腕の中から、はやての場にいるブラック・デーモンズ・ドラゴンを光を写していない瞳で見つめていた、すると…秋輝の様子が三沢達からも見て取れる変化が現れた。

秋輝「誰か助けて欲しいのじゃ！何も見えないのじゃ！何も聞こえないのじゃ！助けて！はやてお姉ちゃん！大地！茜殿！」

秋輝はディヴァインの腕の中で暴れながら、三沢に茜にはやてに助けを求めている。

三沢「秋輝！俺は此所にいるからな！必ず助けてやるからな！」

三沢は秋輝に聞こえる様に大きな声で叫んだ！すると…前はただ聞こえないと言っていた秋輝に変化が見られた。

秋輝「その声は大地…？大地じゃな！助けてなのじゃ！何も見えないのじゃ！動けないのじゃ！助けてなのじゃ！」

ディヴァイン「秋輝？君は僕がいるじゃないか？あんな連中の話は

聞いちゃ駄目だよ…良いね。」

ディヴァインは秋輝に囁く様に秋輝をキツく抱き締めて、三沢の所に向かおうとしている秋輝を必死に捕まえていた。

茜「秋輝！貴方は私を助けてくれた！今度は私が助ける番よ！（お願い…！アタシのデッキ…秋輝を助けて…！）ドロー…！！…！！行きなさい！アタシのモンスター！」

茜の身体が光に包まれると、茜はカードをディヴァインに向けて投げた！すると、カードから、鍛えられた軍馬に跨り、両手に槍を持った戦士が光と共に現れた騎士が、ディヴァインに向かって槍を突き立て、ディヴァインの腕を突き刺した！

ディヴァインは激痛で秋輝から手を離れた隙を見逃さなかった騎士が秋輝を小脇に抱き締め、いち早くディヴァインから離れ、主である茜の元に戻って行った…。

茜「（さっきの力はなんだったの？…何か私に知らない力が沸き上がってたみたいけど…。）秋輝！もう大丈夫だか…ら…っ！な…何よ…この傷口は…っ！」

茜は秋輝の身体の至る所にある傷口を見て口を押さえた。

すると、クロノが傷だらけの身体を押して、最後の力を振り絞って言った…。

クロノ「その…傷は…全てディヴァインにされたんだ…ディヴァインは…秋輝を誘拐した後、拷問にかけて…自分の言う事を聞く人形に…仕立てようとしたんだ…、僕はディヴァインの屑野郎を豚箱にぶち込んでやらなきゃ気が済まない…！」

クロノは普段の自分なら決して言わない台詞を口にすると、三沢に支えられゆっくりと眠った。

三沢はクロノに着ていたライイエローの制服の上着をかけると、クロノをお姫様抱っこで運んで樹の下に休ませた。

三沢「こいつは気に食わなかったが、こいつの言葉から嘘は感じなかった…ディヴァイン…奴だけは許さない…だけど…僕はあの人を信じるしかない…絶対に勝ってくれ…！」

三沢は茜と共に秋輝の肩を抱いてデュエルに行く末を見守っていた…。

はやて「行くで！ウチのバトルフェイズや！！シューティング・スター・ドラゴンの効果発動や！カードを5枚ドローしてドローしたチューナーの数だけ攻撃出来るんや！」

はやてはデッキに手を当てて祈りを捧げた…、仲間の為…そして、信じてくれた仲間の為に…。

はやて「（頼むで…ウチらのデッキ…信じれば、必ず勝機が見えて来る…。）まず一枚目…ドロー！チューナーモンスター…ターボ・シンクロン！二枚目…ドロー！チューナーモンスター…ニトロ・シンクロン！三枚目…ドロー！チューナーモンスター…ジャンク・シンクロン！四枚目…ドロー！チューナーモンスター…デブリ・ドラゴン！五枚目…ドロー…！！チューナーモンスター……クイック・シンクロン！」

はやてのドローが奇跡を呼び、五枚のチューナーがシューティング・

スター・ドラゴンの力となり、シューティング・スター・ドラゴンが五色に分身した。

はやて「行くで！一回目や！シューティング・スタードラゴンでサイキック・ヴィーナスに攻撃や！スターダスト・ミラージュ！」

シューティング・スター・ドラゴン（赤色）がサイキック・ヴィーナス目掛けて勢いそのままに突進を仕掛けた。

サイキック・ヴィーナスは最初の突進を盾で受け流し、シューティング・スター・ドラゴン（赤色）が急旋回すると、後ろから突進を仕掛けた！サイキック・ヴィーナスは持っていた剣でシューティング・スター・ドラゴンの左羽根を剣で受け止めて、耐えていた、しかし：剣が耐えきれず剣が粉々に砕けたのと同じタイミングでサイキック・ヴィーナスが粉々に砕けた。

デイヴァインLP9000↓8600

デイヴァイン「くっ！私の切り札が倒されるとは：しかし、まだ終わらないぞ！アルカディア・ムーブメントの創設を目指す為に！サイキック・ヴィーナスの効果発動！このカードが破壊され、墓地に送られた時、自分のデッキからレベルが9以上になるようにサイキックモンスターを除外する事で、ハイパーサイコガンナーをシンクロ召喚扱いで特殊召喚することが出来る！私はデッキからレベル4のサイコ・ワールドにレベル4のテレキアタッカーにレベル3のチューナーモンスターのサイコ・コマンダーをゲームから除外する！現れる！ハイパーサイコガンナー！」

デイヴァインの場にハイパーサイコガンナーが光を纏いながら現れた。

はやて「まだや！シューティング・スター・ドラゴンの攻撃は4回残ってるんや！二回目や！シューティング・スター・ドラゴンでハイパーサイコガンナーを攻撃や！スターダスト・ミラージュ！」

シューティング・スター・ドラゴン（青色）がハイパーサイコガンナーに狙いを定めて突進した！

『シューティング・スター・ドラゴンだと！？名の通り、星屑となり消えろ！ハイパーツインショット！！』

『貴様等を許す訳にはいかない！我等の主を傷付けたお前達をこれ以上野放しにしてはおけないのだ！』

ハイパーサイコガンナーの弾幕を掻い潜り、シューティング・スター・ドラゴンはハイパーサイコガンナーの身体を貫いた、ハイパーサイコガンナーは自分の腹を貫かれ、爆散した。

ディヴァインLP8600↓7300

ディヴァイン「馬鹿な…私の無敵のサイキックデッキが三回も破れる事が…。」

ディヴァインは後ろに後退りながら冷や汗を流してこんな事実是有り得ない！と叫んでいた。

はやて「まだ攻撃は残ってるんやで？シューティング・スター・ドラゴン！ディヴァインにダイレクトアタックや！」

シューティング・スター・ドラゴン（緑色）がディヴァインに向かって勢いを付けながら、狙いを定め自分の身体を武器にして、攻撃

を仕掛けた！

ディヴァインLP7300↓3300

ディヴァイン「ぐっ！馬鹿な！私のデッキは前より強くなった筈…
なのに何故負ける！！」

ディヴァインは両手を自分の頭に当て、蹲っていた。

はやて「アンタには一生かかっても無理やろな！アンタの様に人の
心をもてあそび、人を駒としか見てないアンタにはな！ウチは…負
ける訳にはいかへんのやああああ！シューティング・スター・ドラ
ゴン！二回連続でダイレクトアタックや！スターダスト・ダブル・
ミラージュ！！」

はやて、三沢、茜、ペガサス、海馬、の思いがシューティング・ス
ター・ドラゴンに集まり、眩い光を放ち、ディヴァインに向かって
勢いを付けて左右から突進した！

ディヴァインは左右からのシューティング・スター・ドラゴンの攻
撃を受け、糸の切れた人形の様に倒れた。

ディヴァインLP3300↓0

はやては倒れたディヴァインを放置すると、足早に秋輝のいる所に
向かって行った。

その時、はやての前から、自分の地位を捨ててまで、逢いたかった
家族の姿がはやてに抱き付いた。

秋輝「はやてお姉ちゃん！逢いたかったのじゃ！今度はちゃんと見えるし聞こえるのじゃ！」

秋輝が瞳に涙を溜めてはやてに抱き付いて、再会を喜んでいた。

はやて「しゅう…き…？本当に秋輝なんやね…？良かった…ホンマに良かったあ…！」

はやては秋輝をキツく抱き締めて声を押さえて泣いていた。

三沢は秋輝をキツく抱き締めているはやてに無言でハンカチを渡した。

三沢は後ろから、秋輝とはやての感動の再会の邪魔をする無粋者の気配を感じ取っていた。

ペガサス会長から渡されたデッキをディスクに装填して、森の奥深く姿を消した…。

全ては大事な親友を守る為に…。

三沢「今度は俺があの人を守る番だ…！！もう誰も悲しませたりはしない！これ以上の邪魔は俺が許さない！！」

三沢は堅く拳を握り、三沢の少し後ろでお互いに再会を喜んでいる二人の顔を自分の心のフォルダにしまうと、自分の目の前に現れた、ピンクの髪をポニーテールにした、女がゆっくりと舞い降りた。

シグナム「私は時空管理局機動六課ライトニング分隊副隊長、烈火の将シグナムだ…主はやてを誑かした燈瀬 秋輝を倒しに来た！邪魔をするなら、貴様も公務執行妨害で逮捕する。」

シグナムの言葉に三沢は完全に堪忍袋の尾がブチッ！と音を立てて

キレた。

三沢「そうか、アンタは秋輝の敵か…なら容赦無くアンタをデュエルで倒せるな!!」

三沢にとって、燈瀬 秋輝という存在は一番掛け替えのないのである。何故三沢は秋輝という存在を大事にしているのかは、まだこの場では語れないが、三沢にとって燈瀬 秋輝という存在は恋人と同じ位に大事な存在なのである。

もし、何かの拍子に倒すや秋輝を悲しませたりしようと言った場合はどうなるか？

その場合、秋輝を悲しませたり、倒すと言った者は一生目の目は拝め無いだろう…何故なら、今迄にそう言った者は三沢が秋輝に気付かない様にデュエルで完膚無きまでに叩き潰し、某病院の病室でデュエル恐怖症に魘されるらしい…。

そう、三沢を怒らせたなら、誰にも止められなくなる…そう、相手が泣いて謝るまでは決して止まらない…まさに鬼と言えよう。

シグナム・三沢「デュエル!!」

シグナムLP4000

三沢LP4000

今、此処に秋輝を守る為に地獄の鬼と化した三沢に、主から見捨てられた、哀れな騎士のデュエルが火蓋を切った。

第七幕 絶望を打ち破れ！！シューティング・スター・ドラゴン（後書き）

どうでしたでしょうか？

シューティング・スター・ドラゴンは迷った結果…アニメ版にしました…。

相談したヒートソウル様、ありがとうございました。

次は三沢（鬼）VSシグナムのデュエルが始まります…。

まあ…シグナムのデッキには禁止カードが入ってます。

犯人は…次回明らかにあります。

では、誤字脱字がありましたら、感想版に書き込みお願い申し上げます。

第八幕 墜ちた烈火の将VS三沢 大地（前書き）

お待たせ致しました…。

では、どうぞ。

第八幕 墜ちた烈火の将VS三沢 大地

シグナム「先攻は貰う！私のターン！カードドロ―！私はモンスターを守備表示で伏せて、カードを2枚伏せてターンエンド…！」

シグナム 手札3枚

場 裏守備モンスター1体

伏せカード2枚

LP4000

三沢「俺のターン！カードドロ―…良しっ！俺はさまようよろいを攻撃表示で召喚！」

三沢の場に、銀の鎧が現れ、自分の持っている剣をシグナムに突き付けて現れた。

さまようよろい（元ネタはドラゴンクエストシリーズ）

☆×3

闇属性

岩石族

攻撃力 1500

守備力 1500

効果 このカードが戦闘で破壊された時、デッキからレベル4以下の闇属性のモンスター1体を選択し、特殊召喚することが出来る。

三沢「まだ終わらないぞ！俺は手札から装備魔法カード発動！【はやぶさの剣】を発動！」

はやぶさの剣（元ネタはドラゴンクエストシリーズ）
装備魔法

効果 このカードを装備したモンスターの攻撃力を300ポイントアップさせ、二回攻撃を行う事が出来る。

三沢 「はやぶさの剣をさまようよろいに装備！カードを2枚伏せてターンエンドだ！」

さまようよろい攻撃力1500↓1800

」

三沢 場さまようよろい1体
伏せカード2枚

装備魔法 はやぶさの剣

LP4000

シグナム 「私のターン！モンスターを守備表示で伏せてターンエンドだ！」

三沢は伏せカードも伏せないでモンスターを守備表示で出しただけでターンエンドしたシグナムのデュエルに疑問を抱いた。

三沢 「（何故…攻撃をしてこないんだ？普通なら攻撃してくる筈だというのに…これは何かありそうだな…。）」

三沢は伏せカードも伏せないでモンスターを守備表示で出しただけでターンエンドしたシグナムのデュエルに疑問を抱いた。

三沢「俺のターン！カードドロ―！俺はモンスターを守備表示で伏せてターンエンドだ！（伏せたのはスライムナイトだ…気を付けなければ。）」

三沢はシグナムの守備表示で伏せたモンスターに警戒して、モンスターを守備表示で伏せるだけに止めた。

スライムナイト

☆×4

水属性

戦士族

攻撃力 1400

守備力 1200

スライムに跨り、剣を持った戦士。魔法と剣の攻撃で敵を翻弄する。

シグナム「私のターン！カードドロ―！私はモンスター2体を生け贄に捧げ、タイラント・ドラゴンを攻撃表示で召喚だ！更に墓地のキラートマトとシャインエンジェルをゲームから除外する事でカオス・ソルジャー―開闢の使者―を特殊召喚！」

シグナムの場から、額にエメラルドの宝石を付けた、ドラゴンが雄叫びを上げ、三沢を睨み付けた、そして、キラートマトとシャインエンジェルが次元の彼方に消えると、タイラント・ドラゴンの右隣りに黒を基調とし、右手に剣を持ち、左手に盾を持ち、兜を被った混沌の戦士がシグナムの場に現れた。

カオス・ソルジャー―開闢の使者―

光属性

戦士族

攻撃力 3000

守備力 2500

効果 このカードは通常召喚できない。自分の墓地の光属性と闇属性モンスターを1体ずつゲームから除外して特殊召喚する。自分のターンに1度だけ、次の効果から1つを選択して発動ができる。

●フィールド上に存在するモンスター1体をゲームから除外する。この効果を発動する場合、このターンこのカードは攻撃する事ができない。

●このカードが戦闘によって相手モンスターを破壊した場合、もう1度だけ続けて攻撃を行う事ができる。

タイラント・ドラゴン

炎属性

ドラゴン族

攻撃力 2900

守備力 2500

効果 相手フィールド上にモンスターが存在する場合のみ、バトルフェイズ中にもう一度だけ攻撃をする事ができる。また、このカードを対象にする罠カードの効果を無効にし破壊する。他のカードの効果によってこのカードが墓地から特殊召喚される場合、自分のフィールド上ドラゴン族モンスター1体を生け贄に捧げなければならない。

シグナム「バトルだ！カオス・ソルジャー ー開闢の使者ーでさまようよろいを攻撃！開闢双破斬！」

カオス・ソルジャー ー開闢の使者ーは、持っている剣を勢いそのままに地面に向けて振り下ろすと、衝撃波がさまようよろいの身体をいとも簡単に粉々に消し飛ばした。

三沢LP4000↓2800

シグナム「カオス・ソルジャー　一開闢の使者一の第2の効果を選択して発動！このカードが戦闘によって、相手モンスターを破壊した場合、もう1度だけ、続けて攻撃する事が出来る！二回目のバトルフェイズだ！カオス・ソルジャー　一開闢の使者一で裏守備モンスターに攻撃！時空突刃・開闢双破斬！」

シグナムの命を受けた、カオス・ソルジャー　一開闢の使者一は、持っている剣を横向きに振り、裏守備モンスターを横一文字に切り裂いた。

三沢「くっ！あっという間にモンスターが全滅か…なんて威力のあるカードなんだ…カオス・ソルジャー　一開闢の使者一。状況は確実に不利だな…しかも、もう一回攻撃を受けたら確実に俺のLPは0になって負ける…。」

三沢はさまようようなろいの効果を使うのすら、忘れる位に考えが纏まっていなかった。

シグナムは自分の絶対的な有利を確信して、三沢に止めを刺す為に叫んだ！

シグナム「これでお前は終わりだな！タイラント・ドラゴンで三沢にダイレクトアタック！！タイラント・フレイム！！」

タイラント・ドラゴンはシグナムの命を受け、口から焼き尽す炎を吐き出し、三沢に襲いかかった！しかし、三沢の瞳は諦めていなかった。

三沢「ふっ…待ってたんだ、アンタがダイレクトアタックを仕掛けて来る、この時をな！！罨カードオープン！【ドレインシールド】」

ドレインシールド

通常罠

効果 相手モンスター1体の攻撃を無効にし、そのモンスターの攻撃力分の数値だけ自分のライフポイントを回復する。

三沢LP2800↓5700

タイラント・ドラゴンの口から吐かれた炎が不可視の盾に阻まれると、吐かれた炎が三沢のLPを回復させる事になってしまった。

シグナムは苦虫を噛んだ様な表情でターンエンドと絞る様に言った。

三沢「俺のターン！カードドロロー！伏せカードオープン！永続罠カード【リビングデッドの呼び声】」

リビングデッドの呼び声

永続罠

効果 自分の墓地からモンスター1体を選択し、攻撃表示で特殊召喚する。このカードがフィールド上に存在しなくなった時、そのモンスターを破壊する。そのモンスターが破壊された時このカードを破壊する。

三沢「効果により、墓地からスライムナイトを特殊召喚する！甦れ！スライムナイト！」

三沢の声に呼応したのか、地面から、緑色のスライムに跨がり、左手に黄色い盾を持ち、右手に剣を持った戦士が現れた。

三沢「更に俺は、スライムナイトを生け贄に捧げ、キラーアーマーを攻撃表示で召喚！！」

スライムナイトが光に包まれながら消えると、新たに紅く染まった鎧がゆっくりと歩き、片腕に持った長剣を左右に振り、現れた。

キラアーマー（元ネタはドラゴンクエストシリーズ）

☆×5

闇属性

悪魔族

攻撃力 2200

守備力 2100

効果 このカードは相手フィールド上に存在する全てのモンスターに攻撃を仕掛ける事が出来る。このカードが戦士族又はドラゴン族と戦闘する場合、攻撃力が400ポイントアップする事が出来る。

三沢「更に俺は手札から装備魔法カード発動！【奇跡の剣】俺はキラアーマーに【奇跡の剣】を装備！」

奇跡の剣（元ネタはドラゴンクエストシリーズ）

装備魔法

効果 自分フィールド上に存在するモンスター1体を選択して発動する、装備したモンスター1体の攻撃力を500ポイントアップする、装備したモンスターが相手モンスターを破壊した場合、相手モンスターの攻撃力の半分を自分のライフポイントを回復する。

キラアーマー

攻撃力 2200↓2700

三沢「バトル！キラアーマーでカオス・ソルジャー 一開闢の使者一に攻撃！キングダムソード！キラアーマーの効果で攻撃力が400ポイントアップ！」

キラーアーマー

攻撃力2700↓3100

キラーアーマーは持っている剣を天に翳すと、稲妻が剣に墜ちると、剣が稲妻を纏い、キラーアーマーは稲妻を纏った剣でカオス・ソルジャー　ー開闢の使者ーの身体を縦一文字に切り裂き、カオス・ソルジャー　ー開闢の使者ーを斬った反動を利用したキラーアーマーはタイラント・ドラゴンの懷に近付き、十字に切り裂き、カオス・ソルジャー　ー開闢の使者ーと一緒にガラスが割れる様に破壊された。

シグナムLP4000↓3700

シグナム「馬鹿な！カオス・ソルジャー　ー開闢の使者ーにタイラント・ドラゴンが呆気なく倒されるとは…しかしLPの差は変わらないぞ！」

三沢はシグナムの言葉を聞いて溜め息をついた。

三沢「奇跡の剣の効果発動！奇跡の剣を装備したモンスターが相手モンスターを破壊した場合、破壊したモンスターの攻撃力の半分を自分のLPを回復する！」

三沢LP2800↓5750

三沢「これでLPの差もこっちが上回ったな、俺はカードを1枚伏せてターンエンドだ。」

シグナム「くっ！私のターン！私はモンスターを裏守備でセットして、魔法カード発動！【サンダーボルト】効果により、三沢！お前

のモンスターを破壊する！」

サンダーボルト（禁止カード）

通常魔法

効果 相手フィールド上に存在する全てのモンスターを破壊する。

空から、雷が降り注ぎ、キラーアーマーに当たり消し炭となり、消滅した。

三沢「【サンダーボルト】だと！？そのカードは禁止カードだぞ！分かってるのか！」

三沢は、禁止カードを躊躇無い使うシグナムに怒りを顔に見せた。

シグナム「黙れ！犯罪者達が決めたルールなど、誰が守るものか！私は【処刑人―マキュラ】を攻撃表示で召喚する！」

処刑人―マキュラ（禁止カード）

闇属性

戦士族

☆×4

攻撃力 1600

守備力 1200

効果 このカードが墓地へ送られたターン、このカードの持ち主は手札から罨カードを発動する事ができる。

シグナムの場に両手に大きな爪を付け、一つ目の禍々しい覇気を放つ戦士が闇の中からゆっくりと現れた。

シグナム「バトルだ！処刑人―マキュラでダイレクトアタック！断

砕処刑！」

処刑人―マキュラは音も無く駆けると、三沢の身体を大きな爪で切り裂いた！

三沢 LP5750↓4150

三沢「くっ！こんな禁止カードを使うデッキに負けてたまるか！（しかし、ボードアドバンテージはあっちが間違い無く有利だな…悔しい限りだが…。）」

シグナム「私はカードを1枚伏せてターンエンドだ！（伏せたカードは【聖なるバリア―ミラーフォース―】だ…攻撃されても全滅するのはお前のモンスターだ。）」

シグナムは気付かれない様にほくそ笑んだ。

聖なるバリア―ミラーフォース―

通常罠

効果 相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。相手フィールド上の攻撃表示モンスターを全て破壊する。

シグナム「私はターンエンドだ！さあ…犯罪者のターンだ！」

三沢「巫山戯るな…！デュエリストの魂にかけて、アンタだけは倒す…！俺の…タアアアアン！」

三沢の頭には、シグナムを倒すという事しか、頭に無かった…すると、三沢の頭の中から、女性の声が聞こえて来た。

『ふふふ…人の憎しみとは面白いものじゃのう、どれ、妾が力を貸してやろう…。』

三沢の脳内に、黒い制服を着て尻尾が何故か九本ある人とは明らかに違う覇気を放つ女性がいた。

三沢「俺は墓地に存在する【さまようよろい】をゲームから除外し、デッキから【京妖怪 茨木童子】を攻撃表示で特殊召喚！！」

さまようよろいの姿が闇に消えると、顔の片方を卒塔婆で隠し、鋭い眼付きの青年が現れた。

京妖怪 茨木童子（元ネタはぬらりひよんの孫）

☆×6

闇属性

妖怪族

攻撃力 2500

守備力 1900

効果 このカードは通常召喚する事が出来ない。このカードは自分の墓地に存在する攻撃力1500以下のモンスター1体をゲームから除外し、召喚する事が出来る。このカードが戦闘する場合、このカードの攻撃力を600ポイントアップする。

三沢「行くぞ！更に手札から魔法カード発動！【鬼太鼓・乱れ打ち】

」

鬼太鼓・乱れ打ち（おんでこ・みだれうち）（元ネタはぬらりひよんの孫）

通常魔法

効果 このカードは自分の場に【茨木童子】が表側表示で存在する

場合のみ、発動する事が出来る。相手の伏せカードを一枚破壊する。

三沢「【鬼太鼓・乱れ打ち】で、アンタの伏せカードを一枚破壊する！」

茨木童子は持っていた刀を円上に振ると、周りに雷の輪が生成されると、雷の輪から、無数の雷の矢が降り注ぎ、シグナムの場の伏せカードを破壊した。

シグナム「馬鹿な！伏せた【聖なるバリアーミラーフォース】が！？」

三沢「バトルだ！茨木童子で処刑人ーマキュラに攻撃！鬼太鼓桴・おんていこ・ぶちぎょうばやみ仏斬鋏！」

茨木童子が持っていた刀に鬼太鼓を鬼憑まじい、逆手に刀を持ち、鋏の様に刀を持ち、処刑人ーマキュラをバラバラに切り裂いた。

シグナムLP3700↓2200

シグナム「ぐっ！！馬鹿な！まさか処刑人ーマキュラが倒されるとは。。。」

シグナムは余程倒されない自信があったのか、誰が見ても分かる様な表情で驚いていた。

茨木童子は三沢だけに聞こえる声ではっきりと言い放った。

茨木童子『こんなのが処刑人かよ…笑わせるぜ。』

三沢「俺はカードを一枚伏せてターンエンドだ。」

三沢はシグナムの表情を見て嘲笑っていた。

※ ※ ※ ※ ※

その頃：秋輝とはやてはというと。はやて「ホンマに大きくなったなあ：お姉ちゃん嬉しいわあ。」

はやては今まで逢えなかった分を埋める様に秋輝を甘やかしていた。

秋輝はそんなはやての気持ちに素直に甘えていた：すると、秋輝の耳に悲鳴が聞こえて来た。

秋輝「はやてお姉ちゃん：何か悲しい声が聞こえてくるのじゃ：。」

秋輝ははやての左後ろの方向を指で指しながら、一緒に行ってくれるかのう？と上目遣いではやてに頼んだ。

この時にはやては、鼻血を出して満面の笑みで親指を立ててたのは、本人の名誉の為に伏せさせて頂く。

はやて「せやな、秋輝は優しいからな：せやけど、管理局の馬鹿がくる前にウチらが保管しとかないかな。」

はやてがシュベルクロイツを持ち、秋輝と共に悲鳴が聞こえた方向に歩いて行った：。

秋輝「はやてお姉ちゃん……このデッキ：に【青眼の白龍】に【青

眼の究極龍】が同じく三枚入ってるのじゃ……。」

はやては震えながら落ちてたデッキを優しく拾っていた。

はやて「ちよつとこのデッキはウチは戦いたくないなあ…せやけど、【青眼の白龍】だけ、絵が違うな…何でか擬人化しとるかは知らんけど。」

はやては極めて冷静に【青眼の白龍】の擬人化された絵柄を見ながらポツリと言った、すると、秋輝とはやての耳に悲鳴が聞こえた。

『痛いよ…熱いよ…苦しいよ…誰か助けて…。』

『どうして私達を踏み付けるの！！私達は悪くないのに…。焼かないで！私達は悪くない！』

『ごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさい…。生まれて来てしまいごめんなさい…。』

秋輝にはやてが見ると、【青眼の白龍】のカードから、涙が流れていた。

はやて「秋輝？このデッキ達は秋輝が使った方がええような気がするわ、ウチには分かる…。」

はやては秋輝に拾ったデッキを渡した。

秋輝「はやてお姉ちゃん…儼怖いのじゃ…この娘達をちゃんと扱えるのか不安なのじゃ…。」

秋輝は震えながらはやてから渡されたデッキを握り締めた。

はやて「ええか、秋輝？デュエリストはな、デッキを信じきれなかったらどんなに強いカードを使っても勝てへんのは解るな？

秋輝は力の正しい使い方が分かつてる：秋輝？この娘達を信じるんや、この娘達を救えるのは、秋輝だけなんや。」

はやては優しく諭す様に秋輝の瞳を見て微笑んだ。

秋輝ははやての言葉を聞いてはやてから渡されたデッキを握り締めてはつきりと言った。

秋輝「はやてお姉ちゃん：儂はこのデッキを使ってみるのじゃ：この娘達にデュエルの楽しさを教えたいのじゃ！」

秋輝ははやてが拾ったデッキを優しく自分の胸元に抱き締めて優しい声でデッキに語りかけた。

秋輝「宜しくなのじゃ：今まで苦しい想いをしたのう：じゃが、もう二度と苦しい想いなどさせぬ、この娘達は儂が守って見せる…。」

秋輝は【青眼の白龍】の入ったデッキごと抱き締めた。

すると、ついさっきまで泣いていた【青眼の白龍】達に変化が現れた。

『熱くない？痛くない？苦しくない？むしろ暖かい：この人なら、私達を大切に使ってくれるかしら？』

『この人といると落ち着く：私達はまだ必要とされてる…。』

『もう私達を苛めない？傷付けない？燃やさない？貴方から優しい

光を感じる…貴方なら私達を大切にしてくれる。』

【青眼の白龍】達は秋輝の優しい声に嬉し涙を流した。

はやて「良かったなあ、秋輝その娘達は秋輝を主と認めた見たいやで…。」

はやては秋輝の後ろから優しく見守っていた。

※ ※ ※ ※ ※

シグナムの表情は既に怒りに染まっていた。

シグナム「貴様の様な犯罪者共がいなければ主はやては私達を見放さなかった！貴様の様な犯罪者がいなければああゝ！！」

私のターン！！私は墓地の【カオスソルジャー ―開闢の使者―】に【処刑人―マキュラ】をゲームから除外し、二枚目の【カオス・ソルジャー ―開闢の使者―】を特殊召喚だ！」

シグナムの場に再びカオス・ソルジャー ―開闢の使者―が地面から颯爽と現れた。

三沢「二枚目の【カオス・ソルジャー ―開闢の使者―】だと！？そのカードはデッキには一枚しかいられないカード…そうだったな、貴様にルールを理解する頭が無かったな！頭の栄養が全て胸にいったアンタにはな！！」

三沢は明らかにシグナムを馬鹿にしていた。

シグナムは顔を赤らめて胸を隠して三沢を睨んだ。

シグナム「貴様あああ／＼／＼ 人が一番気にしてる事を言うなあああ／＼／＼ バトルだ！カオスソルジャー——開闢の使者——茨木童子を攻撃！ 開闢双破斬！」

カオス・ソルジャー——開闢の使者——は持っていた剣を勢い良く地面に振り下ろすと、衝撃波が発生し、衝撃波が茨木童子に襲いかかった！

三沢「ふっ…茨木童子の効果発動…このカードが戦闘する場合、攻撃力が600ポイントアップするんだ…。悪いがカオス・ソルジャー——開闢の使者——は返り討ちだ…。鬼太鼓桴・仏斬鋏！！」

茨木童子が余裕のある笑みを浮かべて、カオス・ソルジャー——開闢の使者——の開闢双破斬を上に乗って躲すと、鬼太鼓桴・仏斬鋏でカオス・ソルジャー——開闢の使者——の身体を四分割に切り裂いた。

シグナムLP2200↓2100

三沢「あっはははは…！攻撃力の計算すら出来なくなった見たいだな！情け無い守護騎士だな！！」

三沢は今まで笑いを堪えていたのか、声を大きくして笑っていた。

シグナム「くっ！！私は…墓地の【カオスソルジャー——開闢の使者——】をゲームから除外し、DTモンスターデータチューナーの【てっこうまじん】を特殊召喚だ！！」

てっこうまじん（元ネタはドラゴンクエストシリーズ）

☆×10

闇属性

戦士族

攻撃力 2800

守備力 2700

ダークチューナー

効果 このカードは通常召喚する事は出来ない。このカードがダークシンクロ召喚のシンクロ素材になった時、このカードをゲームから除外することで相手モンスターのコントロールを1ターンのみ得る、この効果はデュエル中一回しか使用することが出来ない。

シグナム「更に私はライフポイントを半分支払い魔法カード発動！

【守護騎士の絆】」

守護騎士の絆

装備魔法カード

効果 ライフポイントを半分支払うことで発動する事が出来る。ゲームから除外されたモンスター1体の効果を無視して自分の場に特殊召喚し、このカードを装備する。このカードを装備したモンスターかこのカードが破壊された時、装備したモンスターはデュエルに使用する事が出来ない。

シグナムの場に左右が青と白に分かれている、骸骨の盾を持ち、ハルバードを持った鎧がゆっくりと歩きながら闇の中から現れた。

そして、茨木童子にバラバラにされた、【カオス・ソルジャー――開闢の使者――】が地面から颯爽と現れた。

シグナム「私は【カオス・ソルジャー――開闢の使者――】を特殊召喚！更にレベル10のダークチューナーの【てっこうまじん】にレベル8の【カオス・ソルジャー――開闢の使者――】をダークチュー

ニング！！」

カオス・ソルジャー——開闢の使者が八つの星に変わると、てっこうまじんは十個の星に変わると、八つの星を破壊し始め、二つの星が黒く染まって行き、漆黒の闇が辺りを包み込んだ。

シグナム「絶望の深き闇に眠りし魔王よ……今、生け贄は揃った！その偉大な力で世界を蹂躪し、支配せよ！ダークシンクロ召喚！！降臨せよ！破壊神シドー！！」

シグナムの場に青色の堅そうな皮膚に、鋭い爪のついた腕が六本あり、背中には悪魔みたいな羽根を付け、鋭い眼付きの破壊神が今、舞い降り、全ての生き物を震え上がらせる咆哮をあげた。

破壊神シドー（元ネタはドラゴンクエストシリーズ）

☆×ー2

幻獣神族

神属性

攻撃力 4200

守備力 4000

ダークシンクロモンスター

素材 【てっこうまじん】＋ダークチューナー以外のモンスター1体以上

効果 このカードはダークシンクロ召喚でしか召喚することが出来ない。このカードがフィールド上に存在する限り、このカードは相手モンスターに攻撃しなければならない、相手フィールド上にモンスターがいなかった場合、このカードと全ての手札を墓地に送り、ゲームから除外される。

このカードが攻撃する場合、1ターンに1度だけ、相手フィールド上に存在するモンスター2体を破壊し、ゲームから除外する事が出

来る。

上記の効果を使用した場合、このカードは2ターンの間、攻撃する事は出来ない。

シグナム「ふっ…見るが良い…犯罪者共…！これが私の切り札…破壊神シドーだ！倒せるものなら倒して見るが良い！」

三沢は破壊神シドーの圧倒的なオーラに気圧され、足が震えていた。

三沢「な…なんなんだ…あのモンスターは…アレは…もう化け物じゃないか…。それにダークシンクロって…なんなんだ…。」

果たして三沢の運命や如何に…。

???「はやては絶対に取り返す…！その為にはあの悪魔を叩き潰す！」

そして、謎の人物の正体は…詳しくは次回にデュエルスタンバイ！

第八幕 墜ちた烈火の将VS三沢 大地（後書き）

如何でしたでしょうか？

次回はあの娘の口から秋輝の過去が明らかになる！かも知れません。

では、次回の遊戯王GX〜機皇帝と風の物語〜第九幕 秘められし過去を持つ者 にデュエルスタンバイ！

第九幕 秘められし過去を持つ少女（前書き）

漸く仕上がりました…遅筆で申し訳ありません…。

では、どうぞ。

第九幕 秘められし過去を持つ少女

シグナムは余裕のある笑みを浮かべて、足が震えている三沢を見て嘲笑った。

シグナム「ふっ…！どうした…三沢 大地？ 足が震えている様だが？そんなに恐ろしいか？破壊神シドーが…バトルだ！破壊神シドーで茨木童子に攻撃だ！ジゴスパーク！！」

シドーが地獄の底から雷を呼び寄せると、地獄の雷が茨木童子の身体を消し炭にした。

三沢LP4150↓3050

三沢「くっ！茨木童子！なんなんだ…破壊神シドー…聞いたこと無いカードだぞ…。」

三沢は破壊神シドーの力に恐怖を感じていた。

※ ※ ※ ※ ※

はやては秋輝を片手で抱き締めながら、三沢とシグナムがデュエルしている場所に向かっていた。

秋輝「はやてお姉ちゃん…大地は大丈夫かう？」

はやての左腕の中で秋輝ははやてにきつく抱き付いて不安そうな顔で聞いた。

はやては秋輝に笑みを浮かべて優しい声で囁いた。

はやて「大丈夫やで…三沢君なら、絶対に勝って来る…なんたって三沢君はデュエリストやからな。」

すると、心暖まる空間を破る様にハンマーを持った赤を基調としたゴスロリ衣装を着た幼女が秋輝に襲いかかった！

???「はやてから離れやがれー！！この悪魔がぁぁ轟天爆碎！ギガント・シュラクー！」

赤を基調としたゴスロリの少女が身の丈の倍があらうかというハンマーを秋輝に振り下ろした！しかし、はやてが秋輝を片手で抱き締め、その場から空に回避した。

はやて「ウチの秋輝に手を出すなんて最悪やなあ？ヴィータ？」

はやてはハンマーを持ったゴスロリの少女―ヴィータを憤怒の表情で睨んでハイライトの無い瞳でヴィータを見ていた。

秋輝はギガント・シュラクで凹んだ地面を見て顔を青ざめた。

ヴィータははやての変化に頭が理解出来ていなかった。

ヴィータ「は…はやて？なんで…そんな悪魔を守るんだよお…そいつの存在はイレギュラーなんだ！」

ヴィータは後退りしながら、未だに顔色が悪い秋輝をハンマーの先で指した。

秋輝「儂が…イレギュラー…じゃと…儂は…はやてお姉ちゃんの…。」

秋輝がフラフラとした足取りではやてから離れ、ぺたんと地面に座り込んだ。

はやてはヴィータに向けていた怒りを一瞬で消すと慌てて秋輝に近付いて、ヴィータの発言にショックを受けている秋輝をきつく抱き締めた。

はやて「秋輝はイレギュラーやなんかない！秋輝はウチの大事な家族で秋輝はウチの大事な妹なんや！秋輝は優しい娘で人の…。」

はやては秋輝の存在を確かめる様にきつく抱き締めた。

※ ※ ※ ※ ※

三沢「（自分の手札は三枚…そしてシグナムの場には破壊神シドー…破壊したら、俺の手札が…くっ…どうすれば良いんだ！）俺のターン…カード…ドロ…」（『妖が住まう城大阪城』…？なんなんだこのカードは…見た事がないぞ…）くっ…発動しないよりはマシか！俺は手札からフィールド魔法発動！『妖の住まう城大阪城』このカードは自分の場にモンスターが1体も存在しない時に発動する事が出来るフィールド魔法だ！」

妖の住まう城大阪城（元ネタはぬらりひよんの孫）

フィールド魔法

効果 このカードは自分の場にモンスターが1体も存在しない時に発動する事が出来る。このカードが存在する限り、全てのモンスターは妖怪族となり、攻撃力が200ポイントアップする、戦闘で破壊されたモンスターの攻撃力500ポイントに付き、このカードに

カウンターを1つ置く、このカードにカウンターが10個乗った時、このカードを生け贄に捧げ、デッキ・墓地から「京妖怪の総大将―羽衣狐―」を特殊召喚する事が出来る。

三沢とシグナムの周りが城の中に変化を遂げた。

三沢「さあ：百鬼夜行の時間だ！俺は『京妖怪 白蔵主』を召喚だ！」

三沢の場に僧衣を身に纏い、骸骨みたいな顔をした妖狐が空から現れた。

京妖怪 白蔵主（元ネタはぬらりひよんの孫）

妖怪族

闇属性

☆×4

攻撃力 1900

守備力 1900

効果 このカードがフィールド上に存在する限り、相手フィールド上のモンスターは効果を発動する事が出来ない、このカードが攻撃する場合、デッキから装備魔法を一枚このカードに装備する。

三沢「白蔵主で破壊神シドーに攻撃だ！更に白蔵主の効果でデッキから装備魔法『魔王の小槌』を白蔵主に装備する！」

魔王の小槌（元ネタはぬらりひよんの孫）

装備魔法

効果 このカードは妖怪族モンスターしか装備する事が出来ない、このカードを装備したモンスターの攻撃力を800ポイントアップする。このカードを装備したモンスターが相手モンスターを攻撃した場合、もし妖怪族だった場合、ダメージ計算を行わず相手モンス

ターを破壊する、その時、相手モンスターは効果を発動する事が出来ない。

白蔵主はフィールドから現れた黒いオーラを持つ刀を装備すると、空中から勢いを付けてシドーを切り裂く為に突進を仕掛けた！

シドーは雷を放ち、口から炎を吐いて、白蔵主を殺す勢いで攻めた。しかし、白蔵主は怯む事無くシドーの攻撃を紙一重で回避しながら、シドーの身体を魔王の小槌が縦真つ二つに切り裂いた。

三沢「破壊神シドー…撃破だ！」

白蔵主『我等の主には切っ先一寸たりとて触れさせはしないわ！』

白蔵主は魔王の小槌に支配されること無く三沢を守る為に佇んでいた。

シグナムは呆然と自分の場を見ていた。

シグナム「馬鹿な…私の最強モンスターの破壊神シドーがあんな雑魚に…。」

三沢はシグナムの発言を鼻で笑った。

三沢「残念だが、俺のデッキには雑魚はいなくてな、全てのカードが俺の仲間なんだ。俺のターン…白蔵主でダイレクトアタック！」

白蔵主がシグナムの身体を切り裂き、シグナムのLPを0にした。

三沢「ふう…破壊神シドーには手を焼いたがデュエルには勝ったな

…。」

三沢はシグナムを放置したまま、秋輝の元に向かった…。しかし

シグナム「もうデュエルなど関係無い！ 燈瀬 秋輝の存在を消去する！！」

シグナムは自分の腰に差していたレヴァンティンを抜くと、三沢の後ろから飛行魔法で跳び、秋輝を斬り捨てる為に突進した。

しかし、秋輝にシグナムの斬撃が届くことは永久に無かった…。

何故シグナムの斬撃が届かなかったのか？

それは、秋輝とはやての目の前で『天馬騎士ペガサスガイア』が突如現れ、シグナムの前に立ち上がり、シグナムの左腕をペガサスガイアが持っていた長剣で紙を切るかのように綺麗に斬った。

茜「秋輝君とはやてさんには指一本触れさせないわ…秋輝君達を守る為なら、私だって犯罪者になるわ！！」

茜の瞳には決意の炎が燃え上がっていた。

シグナムは自分の斬られた左腕のあった所を自分の右腕で掴んで声にならない悲鳴をあげ、地面を転げ回っていた。

茜は地面を転げ回るシグナムを冷めた瞳で見ていた。

茜「無様な守護騎士ね…高が片腕斬られた位でそんなになるなんて

…ふふふふふ…じゃあ…今度は右腕も斬ってあげましょうか？」

茜はペガサスガイアを手招きで呼ぶとシグナムの右腕を斬りなさいと命じた。

すると、後ろからヴィータが茜目掛けてハンマーを振り下ろした！

ヴィータ「シグナムは殺らせねえぞ！この犯罪者共がああああ〜！！」

しかし、ヴィータの攻撃も茜には届かなかった…。

海馬「ふうん！これ以上はやらせんぞ？青眼の白龍の攻撃！滅びの爆裂疾風弾！！」

海馬がヴィータのハンマーをデュエルディスクで受け止めると、海馬の後ろから、白く輝いた皮膚に青い瞳の龍が咆哮をあげながら現れ、口から全てを破壊する光線をヴィータに向けて予備動作無く放った！

ペガサス「これであるAdministration Bureau（管理局）とやらも懲りると良いので〜すが。」ペガサスは跡形も無く消えた守護騎士（笑）達を思い出し、溜め息を一つ吐いた。

海馬は秋輝から聞いたなのはにフェイトの行動を考えながら口を開いた。

海馬「無理だろうな、奴等は諦めの悪さでは剛三郎以上にしつこいかも知れん、警戒するにこした事は無いな。」

海馬は自分の襟裏についたバッチに口を近付けて磯野を呼んだ。

海馬「磯野、今直ぐにヘリを呼べ、秋輝達をデュエルアカデミアに返すぞ。」

バッチ越しで磯野はヘリの準備に追われていた。

はやて「今回はあの守護騎士（笑）達が迷惑をかけて本当にすいませんでした。」

はやては海馬達に深々と頭を下げた。

海馬「ふうん…オカルト話よりは現実的だが、八神はやてとか言っただか？ 気にするな、お前は時空管理局という劣悪な職場を辞職し、自分の人生を狂わせた俗物共から秋輝という家族を守った…人として良い判断だ。」

ペガサス「Yes♪海馬ボーイの言う通りです！ はやてガールは何も気にする必要はありません！ 何かありましたら、気兼ね無く私達に言ってくださいあゝい！ 力になりまゝです！」

海馬とペガサスの二人から優しい言葉を聞いたはやては涙を押さえ切れずに声を殺して泣いた。

茜「けど、アイツらはきつと何か仕掛けてくるわ、アイツらの考える事はろくなことじゃないのが目に見えてるから…。」

茜の言葉に皆が首を縦に振った。

三沢「だろうな、デュエルの結果すら関係無くカードを奪う様な奴等だからな、デュエル中にカードを奪ったり、人質を取る手段もあり得る。」

三沢はさっきの事を思い出すと、拳をきつく握った、手の間から血が滴り落ちていた。

海馬「ふうん：そんな下衆共に俺の青眼の白龍を渡す訳にはいかん！」

海馬はあんな下衆共に俺は負けん！と声高らかに叫んだ。

すると、空から海馬が呼んだ大型ヘリコプターが激しい音を立てて現れた。

ペガサス「oh！海馬ボーイグッドタイミングです！これでデュエルアカデミアに戻りまゝす！」

ペガサスは開いたドアに茜を引き連れて乗った、茜はペガサスに連れられ、大型ヘリコプターの中でペガサスに静かに聞いた。

茜「ペガサス会長！行き成り手を引つ張らないで下さい！びっくりするじゃないですか！」

茜はペガサス会長を軽く睨んで言った、ペガサスは少し悪そびれた様に言った。

ペガサス「oh! 申し訳ありません! 実はY o uに渡したいカードがあるのです!」

ペガサスは申し訳なさそうに茜に2枚のカードを渡した。

茜「『神聖騎士ペガサスガイア』に『聖剣デュランダル』…?」

茜は不思議そうに2枚のカードを見ていた。

ペガサスは嬉しそうに2枚のカードの説明をしていた。

ペガサス「Y e s! そのカード達は私の夢に出てきたのをイメージ通りに作ってみたのです! このカード達は貴女に使って欲しいのです! 受け取ってくださいね? 茜ガール?」

ペガサスは茜に2枚のカードを渡した。

茜はペガサスから渡されたカードを自分のデッキに入れた。

海馬「ふうん! 磯野! 全速☆前進☆D A! デュエルアカデミアに行くが良い! あっはっはっはっは…。」

海馬はみんなが乗った事を確認すると、大型ヘリコプターの発進を磯野に命じた、磯野は弾かれた磁石のように海馬の命令に答え、大型ヘリコプターをデュエルアカデミアに発進させた。

秋輝「デュエルアカデミアとはどんな場所なのか楽しみなのじゃ！」

秋輝は嬉しそうにはやてと三沢に挟まれて笑っていた。

三沢にはやてはそんな秋輝の笑う姿を見て和んでいた。

三沢「秋輝はやっぱり可愛いですね…はやてさん…。」

はやて「せやろ？秋輝の可愛さは世界に通用する可愛さや！」

三沢とはやてはきつく握手を交わした。

秋輝「クロノ殿、はやてお姉ちゃんに大地は何を言っておるのじゃ？」

秋輝はクロノの瞳を見つめ、首を傾げてクロノに聞いた。

クロノ「あゝっと…余り知らない方が良いんじゃないか？知らない方が良い事もあるさ。」

クロノは頬を掻きながら、知らない方が良いと秋輝の頭を優しく撫でていた。

クロノ「（しかし、なんで母さんは秋輝のカードを第一級ロストロギアに指定したんだ？…今は考えるのはよそう、今は秋輝の笑顔が見れるだけでも十分だ。」

クロノは自分の母親を初めて疑ったが、今は秋輝を守れただけで良いかと割り切って、改めて、秋輝を何がなんでも時空管理局から守らなくてはと硬く誓った。

第九幕 秘められし過去を持つ少女（後書き）

如何でしょうか？

次回は番外編で逢いましょう、それではまた…。

番外編での時系列は完全に関係ありませんので悪しからず。

番外編 夏のシチュエーション（前書き）

居眠り小僧様からバトンを頂いたので、書かせていただきました。

ですが、とても短いです。

自分ではこれが限界でした……orz

番外編 夏のシチュエーション

秋輝「大地！海に行くのじゃー！！」

秋輝が元気な声をあげてラーイエローの三沢の部屋のドアを勢い良く開けた。

三沢はいきなりの秋輝の来訪に驚いていた。

三沢「秋輝！？びっくりしたよ、だけど…海か…良いな！早速行くか！」

三沢は秋輝を自分の部屋に入れると筆筒から海パンとタオルを出すと、海パンとタオルを鞆に入れて、ゆっくりと待っている可愛い幼馴染みの元に向かった。

すると、秋輝の隣りにはオシリスレッドの制服に、茶色の髪の少年が秋輝の隣りに立っていた。

十代「おー！三沢！遅かったな。（秋輝と二人きりの海なんて行かせないぜ？）」

三沢「ああ、すまないな秋輝に十代…少し準備に手間取ってな。（

十代…後で覚えてろよ、デュエルで叩き潰す！）」

三沢に十代は秋輝の気付いて無い所で火花を散らしていた。

秋輝「大地ー！十代ー！速く行かんと暗くなるのじゃー！」

秋輝が三沢と十代を放置して海に行ったのは、三沢が十代とデュエルをしていて、三沢が十代にダイレクトアタックを仕掛けた後で氣付いたそうなの。

三沢と十代は走って秋輝の後を追っていた。

三沢「秋輝が勝手に行ってしまった！十代がデュエルで決着をつけろと騒ぐからだぞ！」

十代「三沢だって、デュエルで決着をつけないと納得しないって言うってじゃないか！」

三沢と十代は責任の擦り付け合いをしながら海に向かって走っていた。

すると、緑を基調とした水着を着た少女がオベリスクブルーの生徒にナンパされていた。

モブA「ねえ、彼女♪今、独り？良かったら、一緒に泳がない？」

モブAは緑の水着を着た少女を肩を掴んでナンパされていた。

少女「済まぬ、今は友を待っているのじゃ…じゃから、共には行け

ぬのじゃ…。」

少女は申し訳なさそうにやんわりと断った。

すると、断られたオベリスクブルーの生徒が強行手段に入った。

モブA「良いから来るんだよ!! げへへへ…さあ、人の来ない場所に行こう…いっぱい啼かせてあげるよ…。」

モブAが少女を無理矢理連れて行こうとした時、後ろからモブAの後頭部に飛び蹴りが当てられた。

三沢・十代「秋輝をアンタみたいな変態に手を出させてたまるかあああゝ!!!」

三沢に十代は見事な連携で、モブAの後頭部にダブルライダーキックを当てると、モブAは星空の星となった。

三沢と十代は慌てて秋輝に近付いた。

三沢「秋輝! 大丈夫か!? あのモブAに何もされて無いな!」

十代「秋輝! 無事で良かったぜ…あのモブAは秋輝に何をしようとしたんだ?」

三沢は秋輝の心配をしており、十代はモブAに何をされようとした

のか考えていた。

秋輝は二人を無視して海に泳いで行ってしまった…、この後…三沢に十代は暫く秋輝に無視され続けたそうなの…。

※ ※ ※ ※ ※

十代「E・HEROスパークマンでダイレクトアタック！スパークフラッシュュ！！」

十代の場に雷を操る青と黄色の戦士の手から雷が放たれ、オベリスクブルーの女生徒を貫いた。

ジュンコLP1200↓0

ジュンコ「あゝっ！負けたあゝ！相変わらず引き運良いわね！十代！」

オベリスクブルーの女生徒―枕田ジュンコは負けた事を悔しそうにしていたが、その顔はすっきりとしていた。

十代「ジュンコだって強かったぜ！あの時に『ハーピィの狩り場』を発動されてたら、負けてたぜ！ガッチャ！楽しいデュエルだったぜ！」

十代はいつもデュエルを終えた時にするポーズをジュンコに向けて太陽の様に明るい笑みをジュンコに向けた。

ジュンコは少し顔を赤らめて言った。

ジュンコ「わ…私も楽しかったわ！ありがとう十代！そうだ…良かったら、一緒に夏祭りの屋台巡りしない？…駄目かしら？」

ジュンコは上目遣いで十代を見つめた。

十代はいつものジュンコとは違う表情のジュンコに顔を赤らめていた。

十代「お…おう…！一緒に行こうぜ！」

十代は照れた顔を隠す様にジュンコの手を握ると、屋台巡りに繰り出した。

十代に急に手を握られたジュンコは最初は驚いていたが、次第に頬を赤らめて十代の手を握り返し、十代と一緒に屋台の中に消えて行った…。

そして、空には花火が煌めいて、二人の仲を祝福していた。

番外編 夏のシチュエーション（後書き）

如何でしたでしょうか？

十代は絶対明日香より、ジュンコが良いと思うのは自分だけでしょうか？

第拾幕 制裁タッグデュエル！十代・翔VS秋輝・茜（前書き）

お待たせ致しました…。

此所で一つ謝罪しなければなりません…制裁タッグデュエルまで、行く筈だったのですが、あの人達と出会って無かった為、あの人達と合わせました。

第拾幕 制裁タッグデュエル！十代・翔VS秋輝・茜

秋輝達はデュエルアカデミアの屋上のヘリポートに着地した。

海馬コーポレーション製の大型ヘリコプターの中から、最初に海馬がドアを勢い良く開き、高笑いをしながらデュエルアカデミアのヘリポートに降りた、そして、三沢達がヘリコプターからゆっくりとした足取りで降りた。

秋輝ははやと三沢に支えられ、ゆっくりとヘリコプターから降りた。

海馬が学園長室のドアを開けると学園長が弾かれた磁石のように慌てて立った。

鮫島「か…海馬社長にペガサス会長まで！」

海馬が学園長の挨拶を華麗に無視すると、用件を言った。

海馬「時空管理局の連中には瞳を光らせておけ、奴等はデュエリストからカードを強奪する集団だ…既に全世界のデュエリスト達にはペガサスが伝えて来た、後はこのデュエルアカデミアのみだ、後、明日から、デュエルの歴史が変わる…。」

海馬はそう鮫島学園長に言うと、自分は役目を終えたと言わんばかりに長椅子に座った。

すると、そこに白い顔にオベリスクブルーの服を着た教師らしき人物が自動扉を通して現れると、後ろから来たオシリスレッドの制服

を着た茶色の髪の少年に水色の髪の少年が学園長室に入ってきた、オベリスクブルーの生徒を着た金髪の少女も前の二人に付いてくる様に入ってきた。

秋輝「（瀬戸：あの生徒達に教師らしき者は誰じゃ？）」

秋輝はゆっくりと海馬に近付くと、海馬の耳側に自分の口を近付けてしゃべった。

海馬「（あのオシリスレッドの二人は茶色の髪の少年が遊城十代だ：そして水色の髪の少年が丸藤翔：オベリスクブルーにいる丸藤亮の弟だ：オベリスクブルーの女生徒は天上院明日香だ：天上院吹雪の妹だ：それに教師らしき者はクロノス・デ・メディチだ：）（秋輝の匂いは良い香りだ：流石は青眼の白龍を操るデュエリスト：そして俺の嫁だ！！）」

最後の方は秋輝に聞こえない様に海馬は秋輝は俺の嫁だ！と自慢するように秋輝の耳を甘噛みした。

秋輝「ひゃん！せ：瀬戸！？耳は弱いんじゃないや：あんっ！せ：せとお、やめてほしいのじゃ。」

秋輝は海馬に耳を甘噛みされて足腰が立たなくなり、海馬に凭れ掛かり、瞳を潤ませて息を荒げていた、海馬は我慢が出来なくなり：遂に自制がきれた：。

海馬「秋輝：さあ、子作r

茜「何やってんのよ！！この変態青眼馬鹿がああ！！！！」ぐおお！！！！」

海馬が秋輝の緑の薄いジャケットを脱がす直前に茜の回し蹴りが海馬の顔に直撃し、海馬を吹き飛ばした！

茜「学園長さん達がいる前で何やってんのよ！これだから青眼馬鹿に秋輝は任せられないのよ！大丈夫？秋輝：あの変態青眼馬鹿は吹き飛ばしたから大丈夫よ：。」

茜は海馬に止めの踵落としを見舞うと、秋輝を自分の腕の中に入れた。

クロノ「海馬瀬戸：自業自得だぞ：いくら秋輝が可愛いからっていきなり襲いかかるな：茜：追加で殴って良いか？」

クロノは海馬を見ながら自分の拳を必死に抑えていた。

すると、白い顔の教師が学園長に向かって言った。

クロノス「このドロップアウトボーイズは即刻退学ナノーネ！ドロップアウトボーイズは学園の規則で禁止している廃寮に深夜に侵入してるノーネ！」

廃寮と聞いた、ペガサスがピクリと反応した。

ペガサス「もしかして：廃寮とは、あの特待生用の寮のことですね？あそこは千年アイテムについて研究してた場所ですね：。」

海馬「ああ：俺も最初は全く信じなかったが、ドーマの事があったから、少しはオカルト話を信じて、研究資金の援助をしたからな、それに余計な族を差し向けた馬鹿がいるらしいがな。」

海馬は長椅子に座りながら、ポツリと言った。

すると、茶色の髪の少年が興奮して、海馬を指差して言った。

十代「あゝっ！海馬瀬戸だぜ！

あの伝説のデュエリスト武藤遊戯と互角に渡り合った伝説のデュエリストだぜ！

くゝっ！しかも、隣りにいるのはデュエルモンスターの産みの親のペガサス・J・クロフォードだぜ！

こんな場所で逢えるなんて俺らラッキーだよな？翔！」

茶色の髪の少年――遊城十代が興奮して海馬とペガサスを見ていた。

水色の髪の少年が溜め息を吐いていた。翔「兄貴ゝ言ってる場合じゃないよゝ、僕たち間違えたら退学だよおゝ！！！」

すると、クロノスは秋輝がペガサスや海馬と仲良さげに話している姿を見ると、悪人の様な顔で声をあげて言い放った。

クロノス「それでーは、ドロップアウトボーイズの退学をかけてデュエルをして貰うというのはどうでスーカ？」

クロノスの意外な提案に学園長の鮫島がそれならば良いでしょう！と瞳を輝かせて了承した。

更にクロノスは学園長すらびっくりする提案を口にした。

クロノス「制裁デュエルの相手はもうこの場にーいる、シニョーラ秋輝に相手をして貰った方が良いと思いますノーネ…ニヨホホホ…」

いきなり話の話題にされた秋輝はびっくりし過ぎて、食べていた苺

大福を喉に詰まらせていた。（ちなみに苺大福は海馬がたまたま寄り道した和菓子屋で購入したらしい。）

秋輝「（ゴクッ！）な…何故儂が遊城殿に丸藤殿の制裁デュエルの相手をせねばならぬのじゃ!？」

秋輝は海馬から受け取って麦茶を一口飲むと、いきなりそんな案を出したクロノスを問い詰めていた。

クロノスは秋輝の怒涛の問い詰めに対し戸惑いながらも秋輝に向けて言った。

クロノス「ソーレは、海馬社長の推薦ナノーネ…こればかりは断れないノーネ!」

秋輝は海馬を恨めしそうに睨んでいたが海馬は素知らぬ顔で何故か意識を取り戻し、長椅子に座りながら、ペガサスとチェスをしていた。（ちなみに海馬は秋輝に気付かれない様に秋輝の尻をいやらしく撫で回していた。）

だが、海馬は後ろから迫る夜叉明王（怒り狂ったはやて十苗）により、殴る蹴るの私刑を受け、強制的に黙らされた。

その光景を目の当たりにした、天上院明日香は兄の天上院吹雪の写真を握り締めて生まれたての小鹿の様に身体を震わせていた。

三沢「自業自得だ、クロノス教諭…秋輝だけでは、ちょっと大変なのでは?」

三沢が、秋輝はちょっと本調子じゃなくて、と付け加えた。

クロノス「そうナノーネ？それでーは、シニョーラ公竜も加えて制裁タッグデュエルで戦うと言うのは、どうナノーネ？（まあ、ワタシにとつてーは、ドロップアウトボーイズがいなくなればこちらの勝ちナノーネ…ムフフナノーネ…）」

クロノスは悪い笑みを浮かべて、学園長に提案をした。
学園長はクロノスの企みなど知らずに了承した。

クロノスは制裁タッグデュエルは三日後に開催するノーネと伝えると足早にその場を離れた、途中で明日香が私も参加させて下さいとクロノスに言っていたが、クロノスが却下していた。

茜「まさかアタシと秋輝が十代君達の相手になるなんて…だけど、デュエルで本気出さないなんて事はしないから…本気で行くわよ！」

茜は少しデッキ調整して来ると言って、秋輝を連れて、学園長に紹介されたラィエローの寮に戻って行った、三沢は案内役と自分の部屋を確認する為に寮に向かって行った。

はやて「さて、秋輝に茜さんが寮に戻った所でちょっと話でもしようか。」

はやてはクロノスを無理矢理追い出すと、話を始めた。

はやて「まずは、ウチの仲間が大変なことをしでかしてしまい申し訳ありませんでした！！」

はやてが学園長達の目の前でクロノと一緒に土下座をした。

鮫島「いえ、貴方達は悪くありませんよ、貴方達は時空管理局という組織に利用されただけなんですから。」

海馬「ふん：お前達は時空管理局という屑な連中から逃げ出した勇氣あるデュエリストだ：その心意気は褒めてやる。」

海馬は悪いのは時空管理局の連中だとはっきりと言い切ると、ペガサスに気になっていた事を聞いた。

海馬「ペガサス：ついさっきヴィータとか言う、小娘が言っていたが、秋輝がイレギュラーと言っていたが、貴様に心辺りはあるか？」

ペガサスは首を横に振った。

ペガサス「解りませ〜ん！何故秋輝ガールがイレギュラーと言われていたのか、全く検討が付きませ〜ん。」

鮫島「う〜む、海馬社長にペガサス会長も解らないとなると私達には全く解りませ〜ん。取り敢えず時空管理局という組織の人達には注意するように明日の全校集会で言ってみます。」

鮫島学園長は、私はちょっと私室で明日の全校集会の書類を作るので、と私室に姿を消した。

海馬にペガサスは今日は休むかと言うと、オベリスクブルーの特別室で休みに行った……。

三沢達はラーイエローの一室で話し合いをしていた。

三沢「う〜ん：神聖騎士ペガサスガイアか……テキストが全く読めない……。」

三沢は両手を上げて降参のポーズをしていた。

茜「うん：アタシも神聖騎士ペガサスガイアに聖剣デュランダルはまだ使わないというか：テキストが全く読めないんじゃ：だけど、あのクロノスって奴気に食わない！しかも秋輝が本調子じゃないのに、制裁タッグデュエルに参加させるなんて：。」

茜は布団ですやすやと寝息を立てている秋輝を微笑ましく見ていた。

三沢「秋輝のデッキはどうするか：「邪神デッキ」は駄目だしなあ：「青眼の白龍デッキ」もなあ：変に疑われるし：どうする？」

三沢は秋輝が制裁タッグデュエルで使うデッキを実家から持ってきたカードとペガサス会長から渡されたカードを見ながら考えていた。

茜「ふうん、秋輝って、意外に堅実にデッキを組んでるんだ：…って！なんでこんな所に『邪神アバター』がいるのよ！！」

茜は『邪神アバター』のカードを指で指して声を荒げて言った。

三沢「茜：まあ落ち着いたらどうだ？秋輝はあの天馬兄弟と知り合いらしい：その時に『邪神ドレッド・ルート』のお払いをしたら、天馬兄弟に邪神のカードに付いた闇を払う代わりに邪神のカードを使ってくれないか？って頼まれたらしい：。ちなみにその『邪神アバター』はお払い済みらしく、天馬夜行から貰ったらしい。」

三沢は秋輝は凄いんだと茜に向けて語っていた。

茜「秋輝って、案外凄いのね：だけど：時空管理局になんて秋輝も狙われてるの？秋輝のカードなら、何となく解るけど：あの死神（

笑)に冥王が狙うなんて…余程の事よ…?」

茜はペガサスら貰ったカードを胸ポケットにしまいながら三沢に聞いた、三沢は首を傾げて言葉を続けた。

三沢「それは俺には解らないな…秋輝は余り自分の事は話さない…それにあの鉄鎚を持ったゴスロリの少女が言ってた、秋輝に向けて言ったイレギュラーという言葉というのも気にはなるが…今は辞めておこう、三日後に開催される制裁タッグデュエルのデッキを決めなければな。」

三沢が息巻いて、秋輝の使うデッキを組んでいた、時折、茜とデュエルで周りを確認し、茜と一緒にデッキを見せ合って、タッグデュエル用に調整していた。

茜「大地…?このカードなんだろう?見た事無いんだけど…。」

茜は三沢に一枚のカードを見せていた、三沢は少し考えながら、一枚のカードを見ていた。

三沢「「スーパーキラーマシン」か…「サージタウス」はペガサス会長が作ったカードだから解るが…「スーパーキラーマシン」だけは解らないな…だけど、デッキには入れた方が良いと思う、このデッキにはパワーが足りなくてな。」

三沢は「スーパーキラーマシン」と「サージタウス」の二枚のカードをデッキに加えると、笑みを浮かべていた。

三沢「良しっ!出来たぞ、秋輝のタッグデュエル用のデッキが…。」

すると、秋輝が眠たい眼を擦りながら起きて来た。

秋輝「ふにゆう、大地？どうしたのじゃあ？」

三沢「秋輝？起こしてしまつて悪かつたな、秋輝用のタッグデュエルのデッキが出来上がったんだ、後は試運転だけなんだが…生憎相手がいないな…。」

すると、茜のPDAが一通のメールを受信した。

『このデュエルアカデミアに遅く入つて来た、人生の敗北者達、オベリスクブルーの将来のデュエルキング、万丈目 準が貴様等の相手をしてやる！光栄に思ふんだな！今日の夜にオベリスクブルーのデュエルリングに来い！ちなみにこのデュエルで負けた奴はレアカードを一枚勝者に差し出す、アンティデュエルだ逃げるなよ！女物の服を着る変態も一緒に連れて来い！』

茜の額に青筋が浮かび上がり、握られたPDAがミシミシと軋む音が聞こえて来た。

茜「へえ、オベリスクブルーが馬鹿だとは思わなかった…大地？ちよつとあの馬鹿を潰して来るね？秋輝を変態って言つた落とし前付けさせて貰うわ。」

茜はレディースの総長が着てそうな衣装に袖を通し、デュエルディスクに自分のデッキをディスクに装填していた。

三沢は無言で立ち上がり、デュエルディスクにペガサス会長から貰つたカードで組んだデッキをディスクに装填していた。

三沢「秋輝の侮辱をした、万丈目 準とか言う、デュエリストの風上にも置けない奴はデュエルで根性を叩き直さないとな！」

三沢は怒っていた、自分の大事な幼馴染みの秋輝を何も事情を知らない奴に侮辱された事に怒りを覚え、万丈目 準をデュエルで負かし、秋輝の目の前で土下座をさせて謝らせるまでは赦さないと心に誓った。

秋輝「儂も連れて来いとメールで書いてたのじゃろ？ 儂も行くのじゃ！デュエルアカデミアのオベリスクブルーがどんな実力か見て見たいのじゃ！」

秋輝は三沢と茜の怒りを知ってか知らずか、デュエルディスクに三沢が構築し、ペガサスが渡したカードで組まれたデッキをディスクに装填して、三沢と茜の手を握った。

秋輝「みんなで仲良く行けば夜道も怖くないのじゃ♪」

秋輝は満面の笑みを三沢と茜に向けた。

三沢と茜は秋輝の嬉しそうに笑う姿を見て、微笑ましい眼差しで見ている。

三沢「あはは…やっぱり秋輝の笑顔を見ると、怒りを忘れるよ…秋輝は純粹だな。」

茜「そうね、あんなに嬉しそうに笑うんだね、秋輝って…ちょっと羨ましいな…アタシもあんな風に笑えるかな？アタシも…秋輝みたいに慣れるかな？」

茜が弱々しく笑みを浮かべて、自分の悩みを口にした。

三沢「秋輝にはなれないが、純粹にはなれるんじゃないか？根拠は無いけどな…秋輝に出来るんだ、茜にだって出来るさ！」

三沢は茜の手を秋輝と繋いでいる手とは逆の手を繋いだ。

秋輝「まるで人の輪じゃな！すっごく楽しいのじゃ♪大地に茜殿は仲が良くて儂も嬉しいのじゃ！まるで恋人同士みたいじゃ！」

秋輝の発言に茜は顔を真っ赤にして、三沢の手を離れた。

三沢「し…秋輝？！い…いきなり変な事を言うんじゃない！びつくりするじゃないか！」

三沢は少し頬を赤くして、秋輝を叱っていた、その頃の茜は暫く呆然と三沢と繋いでいた手をジッと見ていた。

少年少女移動中

万丈目「良く来たと褒めてやろう、俺が将来のデュエルキングの万丈目 準だ、最初は俺の取り巻き達と戦って貰う…。」

オベリスクの紋章が施された豪華なデュエル場に待ち構えていたのは、茜にメールを送った黒い髪にオベリスクブルーの制服を身に纏った男―万丈目 準に万丈目の後ろにいるオベリスクブルーの制服を着た男二人がデュエルディスクを構えていた。

伊知郎「俺は取巻　伊知郎だ！俺の相手は誰だ？俺の最強デッキで叩き潰してやる！」

治郎「俺は須々木　治郎だ！オシリスレッドやライエローの能無し供には考え付かないデッキで翻弄してやるよ！」

伊知郎に治郎は三沢達を完全に馬鹿にした口調で言った。

秋輝「先ずは儂が相手じゃ！オベリスクブルーの力を見せて貰うぞい。」

茜「じゃあ、アタシも行こうかな？大地君は猿山の大将の相手お願いね。」

秋輝は取巻を相手にすると言い、茜は須々木を相手にすると言った。

三沢「ああ…任せてくれ！あんな猿山の大将に負ける訳には行かないからな！」

万丈目は三沢に猿山の大将と言われたのが、余程苛ついたのか、声を荒げて言い放った！

万丈目「三沢大地…貴様だけは許さん！この万丈目　準を猿山の大將と言った事を後悔するんだな！！」

こうして、三沢達と万丈目十取巻き達のデュエルの火蓋が切られた。

第拾幕 制裁タッグデュエル！十代・翔VS秋輝・茜（後書き）

如何でしたでしょうか？

「スーパーキラマシン」と「サージタウス」の二枚のカードは今後、出て来るかも知れませんが、お楽しみに。

第拾壹幕 万丈目の取巻き達VS秋輝・茜（前書き）

※最後の万丈目がかなり悪者です、注意してご覧下さい。

第拾壹幕 万丈目の取巻き達VS秋輝・茜

秋輝・茜・取巻き・須々木 「」「」「デュエル!!」「」

取巻き LP4000 須々木 LP4000

VS

茜 LP4000 秋輝 LP4000

取巻き「最初は俺のターンだ!カードドロ!俺は手札から魔法カード「強欲な壺」を発動!効果でカードを2枚ドロ!更に俺は魔法カード「二重召喚」を発動!効果で俺は二回モンスターを召喚する事が出来る!俺はマンジュ・ゴッドを攻撃表示で召喚だ!」

マンジュ・ゴッド

光属性

天使族

☆×4

攻撃力 1400

守備力 1000

効果 このカードが召喚・反転召喚された時、自分のデッキから儀式モンスターカードまたは儀式魔法カード1枚を選択して手札に加える事ができる。

取巻の場に天使族とは思えない千手観音の様に手を何本も生やしたモンスターが現れた。

取巻き「更にマンジュ・ゴッドの効果発動!このカードが召喚された

時、儀式モンスターカードまたは、儀式魔法カードを1枚手札に加える事が出来る！俺は儀式モンスター「仮面魔獣マスクド・ヘルレイザー」を手札に加える！更に俺はソニックバードを攻撃表示で召喚！」

ソニックバード

風属性

鳥獣族

☆×4

攻撃力 1400

守備力 1000

効果 このカードが召喚・反転召喚された時、デッキから儀式魔法カード1枚を選択して手札に加える事ができる。

取巻の場に背中にジェットエンジンを付け、額にゴーグルを付けた鳥が現れた。取巻「更にソニックバードの効果発動！このカードが召喚された時、俺はデッキから、儀式魔法カード「仮面魔獣の儀式」を手札に加えて、発動する！俺の場のマンジュ・ゴッドとソニックバードを生け贄に捧げ、現れろ！仮面魔獣マスクド・ヘルレイザー！」

仮面魔獣の儀式

儀式魔法

効果 「仮面魔獣マスクド・ヘルレイザー」の降臨に必要。フィールドか手札から、レベルが8以上になるようカードを生け贄に捧げなければならない。

仮面魔獣マスクド・ヘルレイザー

闇属性

悪魔族

☆×8

攻撃力 3200

守備力 1400

効果 「仮面魔獣の儀式」により降臨。フィールドか手札から、レベルが8以上になるようカードを生け贄に捧げなければならない。

取巻の場のマンジュ・ゴッドとソニックバードが光に包まれて消えると、顔に仮面を付け、上半身は人の姿ではあるが、上半身から下半身の間にかけて仮面が至る所に付いてる足と尻尾が赤い異形が地面からゆっくりと現れた。

取巻「更に俺は万丈目さんから頂いた魔法カードを発動するぜ！魔法カード発動！「高等儀式術」俺は手札にある二枚目の「仮面魔獣マスクド・ヘルレイザー」を選択する！デッキから、「仮面呪術師カースト・ギュラ」「メルキド四面獣」を墓地に送り、現れろ！二体目の「仮面魔獣マスクド・ヘルレイザー」！」更に俺は手札にいる、「仮面魔獣デスガーディウス」を特殊召喚だ！」

高等儀式術

儀式魔法

効果 手札の儀式モンスター1体を選択し、そのカードのレベルの合計が同じになるように自分のデッキから通常モンスターを選択して墓地に送る。選択した儀式モンスター1体を特殊召喚する。

仮面魔獣デスガーディウス

闇属性

悪魔族

☆×8

攻撃力 3300
守備力 2500

効果 「仮面呪術師カード・ギュラ」「メルキド四面獣」どちらか1体を含む2体を生け贄に捧げないと召喚できない。このカードがフィールドから墓地へ置かれた時デッキから「遺言の仮面」をフィールド上のモンスターに装備する。その後デッキをシャッフルする。

仮面呪術師カード・ギュラ

闇属性

悪魔族

☆×4

攻撃力 1500

守備力 800

説明 呪いの呪文で相手を念殺する、仮面モンスター。

メルキド四面獣

闇属性

悪魔族

☆×4

攻撃力 1500

守備力 1200

説明 4つの仮面を切り替えながら、4種類の攻撃をしてくる化物。

取巻の場に2体目の仮面魔獣マスクド・ヘルレイザーが現れると同時タイミングで、地面が突如ひび割れると、地面から青い仮面を三つの顔に付けた、両手に鋭い爪を生やした、全身茶色の化け物が2体目の仮面魔獣マスクド・ヘルレイザーと共に声にならない雄叫びを上げて現れた。

取巻「どうだ！俺の仮面儀式デッキの展開力は、この攻撃力を超えるモンスターはそうそういないぜ！俺はターンエンドだ！」

須々木「次は僕のターンだ：カードドロ！手札から融合を発動するよ、手札の「真紅眼の黒龍」と「エメラルド・ドラゴン」2体に「フェルグランددラゴン」2体を融合させて、ファイブ・ゴッド・ドラゴン「F・G・Dを融合召喚するよ。」

真紅眼の黒龍

☆×7

闇属性

ドラゴン族

攻撃力 2400

守備力 2000

説明 真紅の眼を持つ黒竜。怒りの黒き炎はその眼に映る者を全て焼き尽くす。

エメラルド・ドラゴン

風属性

ドラゴン族

☆×6

攻撃力 2400

守備力 1200

説明 エメラルドを喰らうドラゴン。その美しい姿にひかれて命を落とす者は後を絶たない。

フェルグランددラゴン

☆×8

光属性

ドラゴン族

攻撃力 2800

守備力 2800

効果 このカードはフィールド上から墓地に送られた場合のみ特殊召喚する事が可能になる。このカードが墓地からの特殊召喚に成功した時、自分の墓地に存在するモンスター1体を選択する。このカードの攻撃力は、選択したモンスターのレベル×200ポイントアップする。

融合

通常魔法

効果 手札またはフィールド上から、融合モンスターカードによって決められたモンスターを墓地へ送り、その融合モンスター1体を融合デッキから特殊召喚する。

F・G・D

闇属性

☆×12

ドラゴン族

攻撃力 5000

守備力 5000

効果 このモンスターは融合召喚でしか特殊召喚できない。ドラゴン族モンスター5体を融合素材として融合召喚する。このカードは地・水・炎・風・闇属性のモンスターから戦闘ダメージを受けない。

須々木の場に五つの首を持った竜が雄叫びを上げて現れた。

須々木「俺はこれでターンエンドだ…F・G・Dの前に平伏すが良

いさ、デュエルキングは万丈目さんで決まりなんだよ！」

茜「アタシのターン…カードドロ…（くっ！チューナーが一枚もこない…しかも暗黒騎士ガイアすらこないなんて…）アタシはモンスターを守備表示で召喚して、カードを2枚伏せてターンエンドよ…。」

茜は悔しそうにターンエンドと言った。

秋輝「儂のターンじゃ！カードドロ！儂もモンスターを守備表示で召喚し、カードを3枚伏せてターンエンドじゃ！！（いまいち手札が良くないのじゃ…デッキがまだ儂を信用しておらぬようじゃな…。）」

秋輝もモンスターを守備でセットして、ターンエンドと言った。

取巻は秋輝と茜の場を見て、笑った。

取巻「あゝっはっはっは…！ラーイエローの能無し供にはそんな手しか無いよな！俺のターン！カードドロ！カード1枚伏せて、バトル！仮面魔獣デスガーディウスでめえの雑魚を攻撃！ダーク・デストラクション！！」

デスガーディウスが茜の裏守備でセットされたモンスターを両手から生えた鋭い爪に赤い気を纏わせるとそのまま守備モンスターを切

り裂いた！

茜「くっ！破壊された「キラートマト」の効果発動！このカードが戦闘で破壊され、墓地に行った時、デッキから攻撃力1500以下の闇属性モンスター1体を攻撃表示で特殊召喚する事が出来る！アタシは「ゾンビキャリア」を特殊召喚！」

ゾンビキャリア

☆×2

闇属性

アンデッド族

チューナー

攻撃力 400

守備力 200

効果 手札を1枚デッキの一番上に戻して発動する。墓地に存在するこのカードを自分フィールド上に特殊召喚する。この効果で特殊召喚されたこのカードは、フィールド上から離れた場合ゲームから除外される。

デスガーディウスの爪で引き裂かれた顔の付いたトマトが悲鳴と共に破壊されると、紫色の太くなった両腕を持ったゾンビが現れた。

取巻「はっ！そんな雑魚を出した所で何も変わらないぜ！仮面魔獣マスクド・ヘルレイザーでゾンビキャリアに攻撃だ！」

仮面魔獣マスクド・ヘルレイザーが杖を構えると、杖から黒く極大な光の砲撃がゾンビキャリアを飲み込まんと牙を剥いた、しかし…その攻撃は届くことは無かった…。

茜「カウンタートラップ発動！「攻撃の無力化」相手の攻撃を無効にして、相手のバトルフェイズを終了させる！」

ゾンビキャリアの目の前に突如現れた、次元の渦が仮面魔獣マスクド・ヘルレイザーの攻撃を飲み込んだ。

取巻「ちっ！外したか！俺はターンエンドだ！」

須々木「全く優雅じゃないね…僕のターン…カードドロ…、F・G・Dでその男の娘のラィエローに攻撃したまえ！エレメントフレイム！」

F・G・Dが少し須々木を一睨みすると、F・G・Dは秋輝の守備モンスターに向けて五つの首から、それぞれの属性の炎を弱々しく吐いた。

秋輝「くっ！！破壊されたモンスターは「プロトキラー」じゃ！！プロトキラーのモンスター効果発動じゃ！！このカードが戦闘で破壊され、墓地に行った時、自分の場に同じレベルのモンスターを2体特殊召喚する事が出来るのじゃ！ただし、この効果で召喚されたモンスターは攻撃や守備に参加する事は出来ぬがのう。」

秋輝の前に青い装甲に少し欠けた斧を持った機械が現れ、F・G・Dの炎を受け、爆発した！

プロトキラー

☆×3

機械族

闇属性

攻撃力 1200

守備力 1700

効果 このカードが戦闘で破壊され、墓地に行った時、自分の場に同じレベルのモンスターを2体デッキから特殊召喚する事が出来る。ただし、この効果で召喚されたモンスターは攻撃や守備に参加する事は出来ない。

秋輝の場に、緑色のスライムに跨がった小さな剣士が現れると同時に、右腕に剣を持ち、左腕にボウガンを装備した、銀色の装甲の赤いモノアイの機械が現れた。

メタルハンター

地属性

機械族

☆×4

攻撃力 1900

守備力 1500

効果 このカードより守備力が高いモンスターと戦闘する場合、このカードの攻撃力は500ポイントアップする。ただし、この効果は3ターンに1度しか使えない。

須々木「ふっ：そんな攻撃や守備に参加出来ない屑に何が出来るんだい？」

須々木はスライムナイトとメタルハンターを指で指して雑魚だと罵

った。

秋輝「赦さぬ…お主等は絶対に赦さぬぞおおおおお…!!!」

須々木の発言に秋輝は完全にキレた。

三沢「秋輝をあそこまで怒らせたアイツは終わったな…あぁなった秋輝は誰にも止められない…俺でもな。」

三沢は須々木とか言う奴は自業自得だなと自分のデッキを見ながら言った。

須々木「僕はこれでターンエンドだ…さぁ、君達のターンだ…まぁ、この場を見てまだ諦めないのかい？」

茜「当たり前じゃない！まだデュエルは始まったばかりよ！！アタシのターン！カードドロ…！（くっ！まだ来ない…手札には「暗黒騎士ガイア」も高レベルモンスターもない…）カードを二枚伏せてターンエンド…。」

茜は悔しそうに顔を歪ませてターンエンドと言った。

茜「（デッキ達がアタシを信頼してくれて無い！？どうして！？ず

っと戦って来たのに…どうして信じてくれないの!?)」

秋輝「儂のターン…カードドロージャ!! 儂はメタルハンターとスライムナイトを生け贄に捧げ、キラーマシンを攻撃表示で召喚じゃ!!」

メタルハンターとスライムナイトが光に包まれて消えると、秋輝の場に青い装甲に右腕に剣を持ち、左腕にボウガンを装填した、殺戮兵器が地面からゆっくりと現れ、剣を振り回した。

キラーマシン (ドラクエシリーズより)

☆×7

闇属性

機械族

攻撃力 2600

守備力 2400

効果 このカードは相手モンスター全てに攻撃をする事が出来る。
このカードが水属性モンスターと戦闘する場合、攻撃力、守備力が半分になる。

すると、キラーマシンのモノアイが血の色に染まった。

キラーマシン『ワレ…血ヲ…ノゾム…ワレニ…血ヲ…吸ワセロ!!』

すると、秋輝は急に頭を抑えて膝を付いた。

秋輝「な…何なのじゃ！！このカードから伝わる邪悪なオーラは…！な…なんじゃ…これは…知らぬ…こんなカードは知らぬ…」

すると、秋輝の手が勝手に動き、手札からカードを発動した。

茜「「皆殺しの剣」…？（だけど、何…この邪悪なオーラは…この場にいるだけで震えが止まらない…。）」

皆殺しの剣（元ネタはドラクエシリーズ）

装備魔法

効果 このカードを装備したモンスターの攻撃力を倍にする事が出来る、このカードを装備したモンスターが攻撃する時、相手モンスターの攻撃力を1000ポイントダウンさせる。このカードを装備したモンスターが破壊され、墓地に送られた時、自分はこのカードの攻撃力分のダメージを受ける。

キラーマシン『コノ力サエアレバ我ハ無敵ナリ…消工失セロ…雑魚ガ…五月雨斬リ…！！！！』

キラーマシンが装備した皆殺しの剣から放たれた血に染まった剣閃を敵に放つと、須々木に取巻のモンスターを細切れに切り裂き、悲鳴をあげる間もなく消滅した。

秋輝「嫌じゃ：嫌じゃ：嫌あああああ！！！！」

秋輝はモンスターが消えていく様を見るのに耐え切れず、甲高い悲鳴をあげて意識を手放した。

取巻に須々木は秋輝が倒れる様を呆然と立ち尽くしていた。

取巻「（なんでアイツは俺達の出したモンスターのことで悲しむんだ？アイツは優しい…。俺は勝つことしか考えて無かった！）」

須々木「（なんでだ？こんな空しいデュエルは始めてだよ…あの娘はなんで泣いてたんだ？優しいだけじゃない強さ…それはなんだ…？）」

茜は秋輝に駆け寄り、秋輝を揺すった、だが秋輝の瞳からは光が無く、目は見開かれたまま、起きることは無かった。

万丈目「ふんっ！！たかがモンスターが撃破された位で錯乱し、倒れるとは情け無い！！」

須々木は万丈目の発言に背筋が凍り付き、取巻は秋輝の心配をしていた。

三沢「おい…その人間のクズ…俺とデュエルしろ…。」

三沢が万丈目を睨み付け、デュエルディスクにデッキを装填し、万

丈目に向けて怒りを顕にした。

万丈目「貴様！！この将来のデュエルキングの万丈目準様をクズだと！赦さんぞ！貴様はこの万丈目準自ら叩き潰してやる！！光栄に思っんだな！！」

万丈目の顔は怒りで赤くなり、怒りに震えていた。

取巻は茜に近付けて申し訳なさそうに声をかけて来た。

取巻「その…秋輝？だったか？モンスターを大事にしてるんだな…悪かったな、アンタのモンスターを雑魚扱いしてすまん。」

取巻は茜に向かって頭を下げた。

茜「アンタって、意外に常識あるのね、気にしないわ、謝ってくれたならそれで良いし。」

茜は秋輝が目を覚ましたら言ってあげてと言うと、須々木を呼んで秋輝を保健室まで運んだ。

須々木「（僕は今まで何をしていたんだ！僕は忘れてた…モンスターに愛が無くちゃデュエリストとして失格じゃないか…変わらなきゃな、僕自身がカードの強さだけじゃない強さを得る為に…。）」

須々木は独りそう決心すると、取巻と一緒に秋輝を運びながら、誓いを立てた。

第拾壹幕 万丈目の取巻き達VS秋輝・茜（後書き）

如何でしたでしょうか？

前より長く書けなくなってます、どうするべきか…。

（長くと言っても効果や説明を抜いたら大して書いて無いんですけど…。）

では、次回にデュエルスタンバイ♪

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6997p/>

遊戯王GX～機皇帝の女神と風の物語～

2011年10月6日16時28分発行